

平成20年度広域ブロック自立施策等推進調査

平成20年度 九州圏における地域の存続・再生に関する調査  
報告書

平成21年3月

国土交通省九州地方整備局

# 平成 20 年度 九州圏における地域の存続・再生に関する調査報告書

## 〈本 編〉 目 次

<b>第 1 章 調査の概要</b> .....	1
1. 調査の背景 .....	1
2. 調査の目的 .....	2
3. 調査の基本的な方針 .....	2
4. 調査の対象範囲 .....	2
5. 調査の実施期間 .....	2
6. 調査のフロー .....	3
7. 調査の内容 .....	4
<b>第 2 章 対象地域の抽出</b> .....	6
1. アンケート調査の概要 .....	6
2. 集落アンケート調査の結果 .....	13
3. 自治体アンケート調査の結果 .....	88
<b>第 3 章 地域の存続・再生に有用な支援ツールの発掘及び活用策の検討</b> .....	99
1. 地域の存続・再生に有用な先行事例調査 .....	99
2. 知恵袋集データベースの作成 .....	126
<b>第 4 章 対象地域の調査</b> .....	129
1. ワークショップ対象地の選定 .....	129
2. 対象集落の現地概要 .....	132
3. ワークショップの概要 .....	136
4. 第 1 回ワークショップの概要 .....	138
5. 第 2 回ワークショップの概要 .....	145
6. 第 3 回ワークショップの概要 .....	157
7. ワークショップの総括 .....	162
<b>第 5 章 集落元気づくりへの提案及び支援検討</b> .....	164
1. 九州圏集落情報データベース(仮称)の作成 .....	164
2. 九州版「集落元気づくり」へのきっかけづくりワークショップによる支援 .....	166
3. 九州版「自立的な集落元気づくり」の取組体制の構築 .....	168

4. 九州版「集落元気づくり知恵袋集」の作成・更新と活用	170
5. 九州圏の「集落元気づくり」の支援を行う中間組織の検討	172

## 参考資料

参考資料 1 協議会議事要旨	- 1 -
参考資料 2 集落元気づくり新聞	- 8 -

# 第1章 調査の概要

## 1. 調査の背景

### (1) 九州圏において存続が危ぶまれる集落の明確化

全国的な人口減少・少子高齢化の進展の中で、九州圏では、地理的条件の不利な離島・半島や中山間地域において、その傾向が顕著であり、集落単位で見ると、人口減少・少子高齢化の進展で、集落活動を維持することも困難な状況を呈する集落も見られるようになってきている。

昨年度の調査結果から、自治体において存続を危惧する、対策を講じていくべき対象集落 (High risk target) が明らかとなっており、その対象集落の存続・再生の方策を具体化していくことが必要である。

### (2) 集落が求める問題の明確化

離島や半島、中山間地域といった地理的条件不利地域における存続が危ぶまれる集落の存続・再生への課題は、全国の中でも九州圏は、最も深刻なものである。

また、これまでも条件不利地域に対しては、様々な振興策が講じられてきたが、人口減少・高齢化の進行を留めるまでには至っていない。

さらに、対策を講じていくべき対象集落は、小集団とは言っても、人がどれだけ住んでいるのか？ 共有財産はどれだけあるのか？ 病気の時はどこへ行くのか？ 移り住むとしたらどこへ行くのかなど、問題は包括的である。

対象となる集落の存続・再生に向けては、これまでの既成概念に囚われず、それぞれの集落に暮らす人々の抱える問題（ニーズ）を即地的に把握し、その解決への処方箋を明らかにしていくことが不可欠である。

### (3) 主人公は「住民」

条件不利地域では、その厳しい環境の中で、多くの暮らしの知恵を生み、継承してきた多様な文化と、少なからず人々の手で維持されてきた豊かな自然が維持されてきている。

しかし、人口減少・高齢化は、それら人々の暮らしはもとより、豊かで多様な文化や自然を維持し、継承していくことも危惧される状況となっている。

また、集落の活性化において先進的とされる事例に目を向けると、集落の内部人材の意志の影響が大きいことが指摘されており、集落の存続・再生にあつては、集落の人材に目を向けていくことが必要である。

## 2. 調査の目的

本調査の背景を踏まえ、社会福祉的なものから産業振興、交流活性化まで、多種多様な対象集落の要望（生の声）を徹底的に把握し、周辺地域（集落）との関係も見据えながら、対象集落の“集落元気づくり（住民が最も安心で元気が出るプログラム）”の策定を行う。

その検討過程における課題抽出から集落元気づくりの立案（アクションプラン）、モニタリングを経て、経過評価等に至る一連の過程や、専門家やノウハウ等の蓄積、即地的な課題抽出から得られた地域要望への対策や工夫、先行事例などの蓄積は、汎用的な成果の一つ知恵袋集（先行事例集）としてとりまとめる。なお、今年度は、集落元気づくり策定までを調査範囲とする。

一連の検討過程において、学識経験者との協力も得て、存続が危ぶまれる集落の存続・再生に向けた九州圏独自の支援策について検討し、そのあり方を提案することを目的とする。

## 3. 調査の基本的な方針

以下に本調査の3つの検討方針を示す。

**検討方針1** 対策を実施すべき対象集落（High risk target）の居住者をターゲットとして、その再強化（empowerment）を検討していく。

**検討方針2** あくまで主人公は住民であり、集落元気づくり策定を通じた申請（Apply）を基本として検討を進めていく。

**検討方針3** 再強化に当たっては、集落の意志による内発的、自立的に再強化を前提とし、専門家の支援や集落再生のノウハウの蓄積を行い、対象集落の即地的支援から導かれる九州モデルの構築を目指す。

## 4. 調査の対象範囲

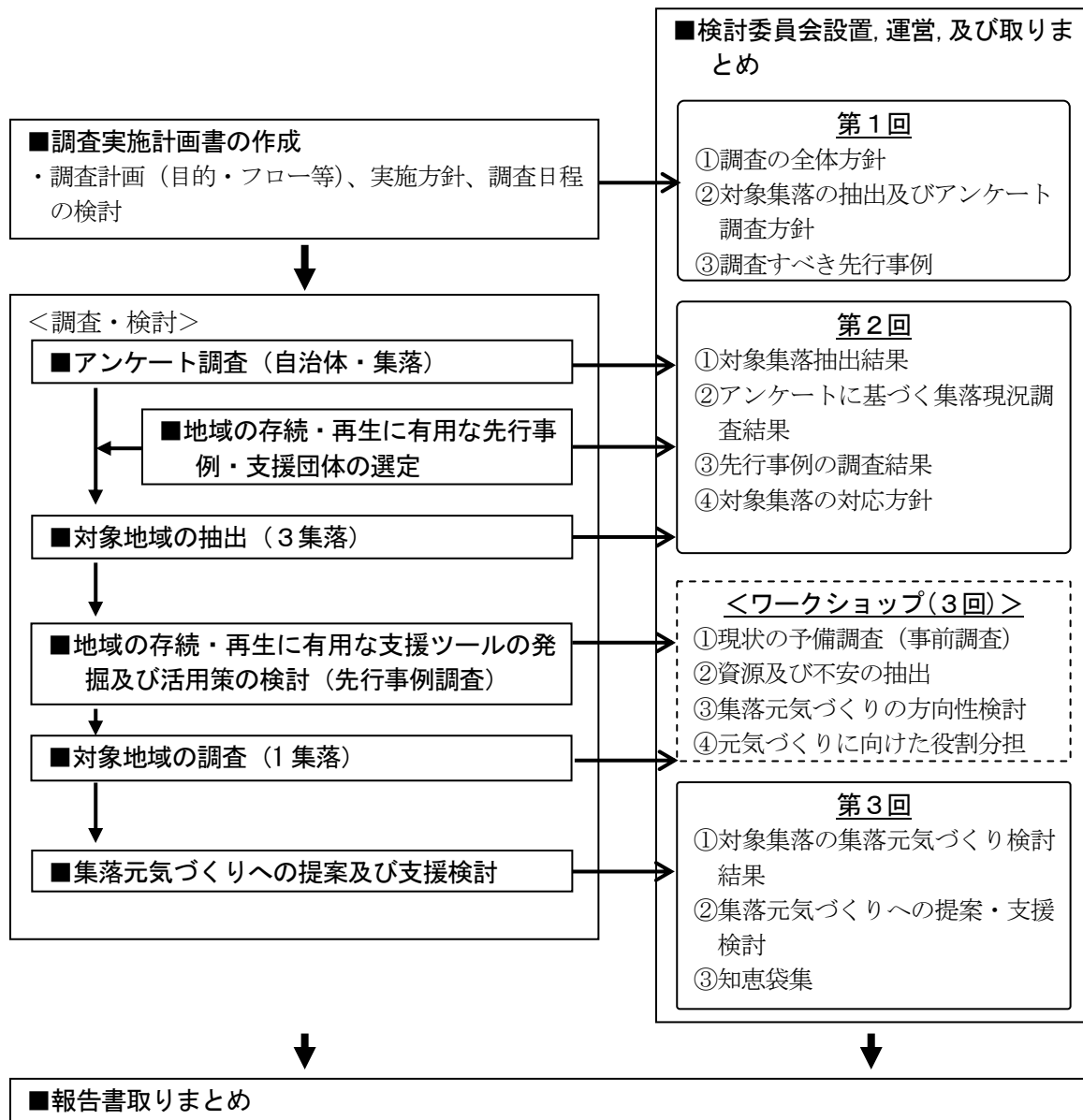
本調査では、九州圏全域の離島・半島や中山間地域等の存続が危ぶまれる集落と集落元気づくりへの取組において先行的な取組を実施している集落を対象とする。

## 5. 調査の実施期間

本調査は、平成20年9月30日から平成21年3月27日までの期間とする。

## 6. 調査のフロー

本調査は、次に示すフローに沿って調査を実施した。



調査フロー

## 7. 調査の内容

本調査において行った調査項目の概要を以下に示す。

### (1) 調査実施計画書の作成

本調査の実施に当っては、調査を効果的・効率的に遂行するために、本調査の目的・主旨、及び特記仕様書に示す調査内容を確認した上で、目的や調査フローなどを示す調査計画や調査方針、調査の実施工程とそれに基づく委員会日程を計画し、調査計画書として取りまとめた。調査計画書作成にあたっては検討委員会委員長である山口県立大学健康福祉学部の小川全夫教授の指導により、集落に対し、より即地的な支援を行うため集落の申請に基づく集落元気づくりとするため、対象集落の抽出方法において、当初仕様と異なる調査手順に変更した。

### (2) 対象地域の抽出

本調査では、基本方針に示すとおり、対象集落の住民を主体とした集落の維持・存続を目指すことから、住民の集落維持・再生の意欲があり、かつ集落元気づくり策定の意志があることの確認を前提とした対象集落抽出を基本とする。また、集落の存続・維持に対する意志のみでなく、対象集落の周辺地域から対象集落に対する支援（関係性）の意志についても対象集落の選出要件として考慮した。

#### ① アンケート調査

アンケート調査は九州圏において存続・維持が危惧されている集落を対象として、集落維持・再生に向けた集落の自発的行動への取り組み意欲を確認することを目的として、集落代表者と対象集落が存在する自治体に対するアンケート調査を実施した。

#### ② 対象集落の選出（本調査におけるモデル集落）

アンケートの調査結果に基づき、集落元気づくりへの取組に適した集落を3箇所選出した。

### (3) 地域の存続・再生に有用な先行事例の調査

先行事例の調査に当たっては、地域実態に即した暮らし改善の知恵や集落元気づくり（集落元気づくりの目指す集落の自発的行動により集落の存続・維持を実現した事例）の好事例を学識経験者の助言も受けつつ抽出・整理を行った。

合わせて、関係省庁で実施されている地域活性化に資する新たな補助助成制度を把握し、整理した。

検討過程で得られた先行事例調査や関係行政機関の支援制度、集落元気づくりで得られた様々な地域ニーズに対応した工夫を一冊にとりまとめ、今後、プログラム構築や実現を目指す地域の住民や住民団体、事業者、自治体などの参考となる事例集（知恵袋集）としてとりまとめを行った。

### (4) 対象地域の調査

住民発意による「集落元気づくり」を支援するため、現地でのワークショップを3回開催し、以下についての調査検討を行った。なお、ワークショップの開催にあたっては予備調査を始め、対象集落全世帯に対するアンケート調査を実施し、集落の各世帯の生活実感や集落元気づくりに向けた意向の確認を行った。

表 ワークショップの開催テーマとその内容

回数	開催テーマ	内容
第1回	集落の現況把握	集落住民の意見を直接聞きながら、集落の抱える問題点等の現状を把握する。
第2回	集落元気づくりの内容検討	集落の資源やその活用意向を把握しつつ、「集落元気づくり」の検討を行う。
第3回	集落元気づくり実施に向けた役割分担検討	取り組みを行う際の体制や取り組み実現への協働体制・支援策を検討する。

### (5) 集落元気づくりの提案及び支援検討

(2)～(4)の検討を受けて、九州圏における存続が危ぶまれる集落の存続再生への道筋やそれを支える支援のあり方について支援策の検討を行うとともに、今後の集落支援体制構築に向けた提案を行った。

### (6) 検討委員会の設置・運営及び取りまとめ

専門家（小規模・高齢化集落問題、地域経済、防災関係、県代表）で構成し、専門的な知見と現場の声を反映した。

検討委員会の委員には事前ヒアリングを実施し、調査に対する意向や助言をいただいた。また、第2回と第3回の間にて開催した集落元気づくりワークショップでは検討委員会の委員にも参加いただき、現地での助言指導を受けると同時に、委員会でも現場の実情を踏まえた議論をしていただいた。



## 第2章 対象地域の抽出

### 1. アンケート調査の概要

#### 1.1. 調査目的

平成19年度に九州圏の全自治体（市町村）を対象としたアンケート調査によって、存続が危惧される集落の状況や課題、存続・再生に向けた取り組みについて把握した。

そこで本調査は、小規模・高齢化集落の活力維持・向上に向け、“集落住民が安心して元気が出る暮らしの実現”のための支援策を具体的に検討していくための基礎資料にすることを目的とし、集落（代表者）を対象として、集落の共同活動の実施状況を把握するとともに、共同活動の重要性や今後居住を継続する上での不安、集落元気づくりに向けた取り組み意欲など、住民意識について即地的な実態を把握した。

また、自治体からは、集落の世帯数、高齢化率、社会基盤の状況などの基礎情報や集落元気づくりへの支援意向や体制について把握した。

#### 1.2. 調査対象

集落機能の実態は、統計的な資料のみでは把握できないことから、平成19年度調査で存続が危ぶまれると考えられた集落のうち、高齢化率30%以上、世帯規模150世帯以下となる集落を対象とした。（481集落、135自治体）

#### 《調査対象集落選定の考え方》

- ・自治体実感⇒平成19年度調査で回答のあった、自治体が「存続が危ぶまれる集落」と考えた集落（146自治体※現在は合併により145自治体）

- ・客観的指標⇒高齢化率で概ね30%以上、世帯数で概ね150世帯以下

特に中山間地域において、自治体実感からあげられた集落を幅広くカバーする範囲として設定（概ね全体の9割をカバー）

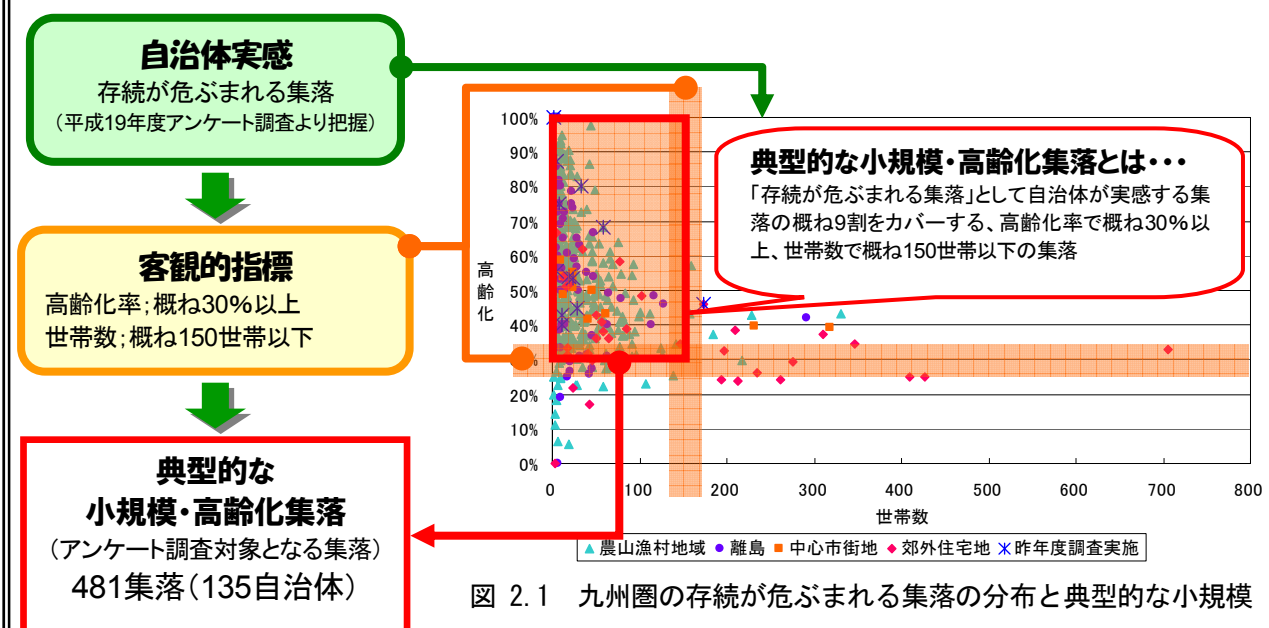


図 2.1 九州圏の存続が危ぶまれる集落の分布と典型的な小規模高齢化集落の範囲

### 1.3. 調査方法

対象自治体 135 自治体及び対象集落 481 集落の代表者に対し、回答期間を平成 20 年 12 月～平成 21 年 1 月とし、アンケートを実施した。図 2.1 に配布・回収手順を示す。

#### ①集落アンケートの配布・回収

- ・ 当該自治体に依頼し、集落代表者へ配布、集落代表者から郵送で回収を行った。

#### ②自治体アンケート配布・回収

- ・ 当該自治体に依頼し、郵送による配布・回収を行った。

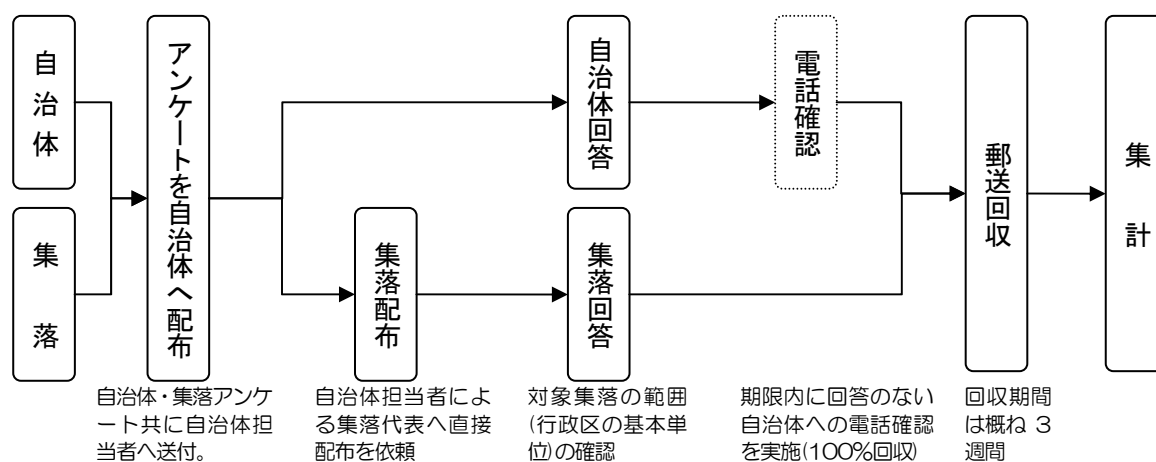


図 2.2 アンケート配布・回収フロー

## 1.4. アンケートの設問構成

典型的な小規模・高齢化集落における即地的な実態を把握するため、集落及び自治体に対して、表 2.1 に示す設問構成により、アンケートを実施した。

### ①集落アンケート（集落活動の実態の把握、元気づくりへの取り組み意欲を把握）

対象集落の住民（代表）に対し、集落元気づくりを策定する意志を確認するために実施する。合わせて、対象集落の生活機能・資源に関する設問へ回答していただく。

集落アンケートの設問構成を表 2.1 に示す。

表 2.1 集落アンケートの設問構成

アンケートの設問項目	設問内容	設問の目的
①回答者属性	氏名・連絡先（電話・住所）	後日連絡の可能性があるため回答者の連絡先を把握
②集落の現状について （集落現況調査）	寄り合いの開催、共同作業、祭り、共有資産管理の状況、相互扶助の実態、利用可能な景観・資源、UIJ ターンの実態	集落の生活機能や資源に関する実態を把握し、対象集落を抽出するための基礎資料とする。
③集落元気づくりについて	子孫に伝えたいこと、居住にあたっての不安事項、居留意志、集落支援要望、行動計画策定意志、取り組みアイデア、他出者や大学など、外部組織・人材とのつながり	対象集落を抽出する上での集落意向のレベルを確認する。

### 《集落アンケートの構成図》

#### 目的① 集落の安心

集落共同活動、  
居留意向と居住継続の不安

#### 居留意向と居住継続上の課題

- 集落共同活動の実態
- 集落居住の継続意志、居住継続にあたっての不安（医療、共同作業、農林漁業、公共交通等）

#### 目的② 集落の元気

活用可能な地域資源

#### 活用可能な地域資源や残したい地域資源

- 活用可能な地域資源等の把握（景観や食材、伝統芸能の他、祠、習慣、空き屋、遊休農地、放棄山林、等）

#### 目的③ 取り組み意欲

集落元気づくりへの取り組み

#### 集落元気づくりへの取り組み意欲等

- 集落元気づくりの取り組みへの意欲やアイデア
- 他出者や大学等外部組織・人材とのつながりの必要性

## ②自治体アンケート（集落の基礎的情報の把握、集落支援への協力意向を把握）

対象集落(481集落)の状況を把握するための基礎資料となることを目的として、集落の人口、高齢化、年少人口、対象集落の位置（生活中心都市までの時間距離は NITAS※により分析）等の集落の基本的な情報の確認を行う。

自治体アンケートの設問構成を表 2.2 に示す。

なお、自治体アンケートに先立つ事前調査として、小規模高齢化集落の典型的な集落の客観的な属性条件を把握するため、集落の人口（総人口、老年人口）、世帯数を把握する。（電話による確認調査を実施した）その際、集落の位置（地図に図示していただいた）についても合わせて把握した。

※NITAS: NITAS (National Integrated Transport Analysis System: 全国総合交通分析システム) 「道路」・「鉄道」・「航空」・「船舶」の各交通機関を組み合わせることで総合的に交通体系の分析を行うシステムのこと。集落から生活中心都市までの時間距離を様々な交通手段により正確に算出できる。

表 2.2 自治体アンケートの設問構成

アンケートの設問項目	設問内容	設問の目的	
①対象集落の生活機能・資源に関する設問 (集落現況調査)	活用可能資源	地域資源・資産の管理状況	集落の生活機能や資源に関する実態を把握し、対象集落を抽出するための基礎資料とする。
	生活サービス	社会基盤の整備状況、商業・医療・公共施設の立地状況	
	コミュニティ・交流	交流施設の状況	
②集落元気づくりへの協力度合い	自治体の集落元気づくり策定への協力度合い 大学、事業者、団体における協力体制の有無・意向	対象集落を抽出する上での自治体意向の度合いを確認する。 また、集落支援を行っている、あるいは行う可能性のある主体の確認。	
③対象集落で集落元気づくりを策定する場合のアイデア	集落元気づくり策定にあたってのアイデアの提供	自治体として考えられるアイデアの提供依頼	
④事務連絡事項	回答担当部署	平成 19 年度と変更があれば記入	

### 《自治体アンケートの構成図》

#### 目的①基礎的情報把握

集落機能維持にかかわる  
基礎的情報

#### 対象集落の生活機能・資源

- 交流・コミュニティの状況(集会施設、学校施設等)
- 生活サービスの状況  
(社会基盤、公共交通、医療福祉、商業施設等)

#### 目的②協力意向等の把握

自治体の協力意向  
外部支援の可能性

#### 集落元気づくりへの協力意向等

- 集落元気づくりの取り組みへの自治体の協力意欲
- 集落元気づくりの取り組みにあたってのアイデアの提案
- 対象集落における集落単位見直しの予定

## 1.5. 分析方針

集落アンケートと自治体アンケートから把握される基本属性情報（世帯規模、高齢化率、生活中心都市までの時間距離等）の結果にもとづき、分析を行った。集落元気づくりのアイデアについては、「安心」、「元気」、「外部交流」の3つに分類、整理した。

## 1.6. アンケートの配布・回収状況

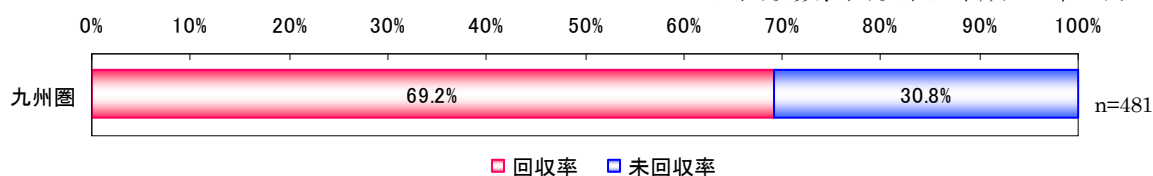
### ①集落アンケートの配布・回収状況

・集落アンケートの配布は九州圏の 481 集落の代表者に対して行い、333 集落から回答を得た。  
(回収率 69.2%)

表 調査対象数

県名	配布数	回収数	回収率 (%)
九州圏	481	333	69.2%

※回収数、回収率は平成 21 年 3 月 22 日現在



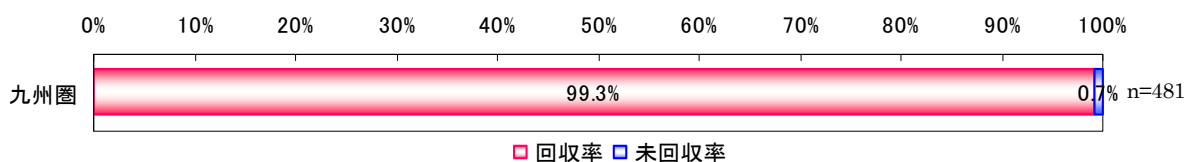
### ②自治体アンケートの配布・回収状況

・自治体アンケートの配布は九州圏の 135 市町村長に対して行い、134 自治体から回答を得た。  
(回収率 99.3%)

表 調査対象数

県名	配布数	回収数	回収率 (%)
九州圏	135	134	99.3%

※回収数、回収率は平成 21 年 3 月 22 日現在



### ③回答者（集落代表者）の年齢区分

- ・回答者（集落代表者）の年齢区分が、住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、65歳未満、65歳～75歳、75歳以上の3つの年齢区分別に集計を行った。
- ・回答者（集落代表者）の年齢区分別の割合をみると、65歳未満（37.0%）、65歳～75歳（45.1%）、75歳以上（17.9%）となっている。

表 回答者（集落代表者）の年齢

回答者の年齢	集落数	有効%
～40歳	3	0.9%
40～44歳	3	0.9%
45～49歳	13	4.1%
50～54歳	18	5.6%
55～59歳	26	8.2%
60～64歳	55	17.2%
65～69歳	66	20.7%
70～74歳	78	24.5%
75～79歳	42	13.2%
80～84歳	13	4.1%
85～89歳	2	0.6%
計	319	100.0%

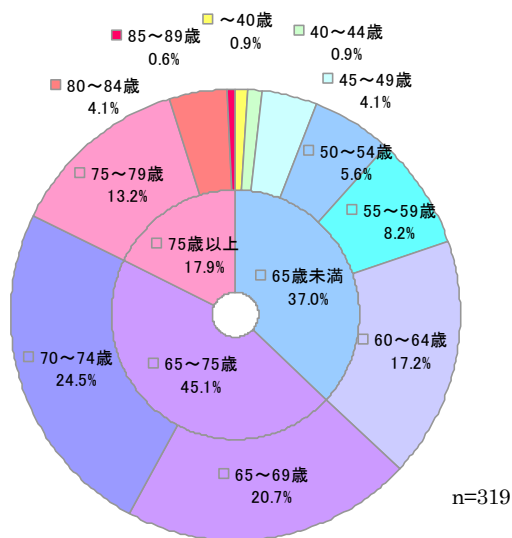


図 回答者（集落代表者）の年齢

### ④まとめ

集落代表者に対する集落アンケートは、7割近く回収され、333集落の生活機能・資源の把握を行うことができた。また、集落元気づくりの協力意向を集落代表者に直接問い合わせることで、今後の集落支援の体制構築にあたっての課題を明らかにすることが出来た。（集落代表者の年齢構成として8割が60歳以上であることも明らかとなった。）

対象自治体への電話催促により1自治体を残し、すべての配布自治体からアンケート結果を回収することが出来た。結果、九州圏において存続が懸念される集落の基礎情報を把握することができた。

## 2. 集落アンケート調査の結果

### 2.1. 対象集落の基礎的属性

#### (1) 集落の世帯規模

- ・世帯規模が住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、世帯規模を20世帯未満、20世帯～50世帯、50世帯以上の3つの世帯規模別に集計を行った。
- ・20世帯未満の集落の割合は、長崎県（73.5%）、大分県（67.8%）、鹿児島県（66.0%）、佐賀県（64.3%）で高くなっている。
- ・各県とも、20世帯以上50世帯未満の集落数は、約3割となっている。
- ・一方、50世帯以上の集落の割合では、宮崎県（32.1%）、福岡県（26.6%）で高くなっている。

表 対象集落の県別・世帯規模別の集落個数

世帯数		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	計(九州圏)
20世帯未満	度数	25	18	25	43	40	32	95	278
	%	39.1%	64.3%	73.5%	58.1%	67.8%	41.0%	66.0%	57.8%
20世帯以上50世帯未満	度数	22	8	7	21	15	21	34	128
	%	34.4%	28.6%	20.6%	28.4%	25.4%	26.9%	23.6%	26.6%
50世帯以上	度数	17	2	2	10	4	25	15	75
	%	26.6%	7.1%	5.9%	13.5%	6.8%	32.1%	10.4%	15.6%
計		64	28	34	74	59	78	144	481
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

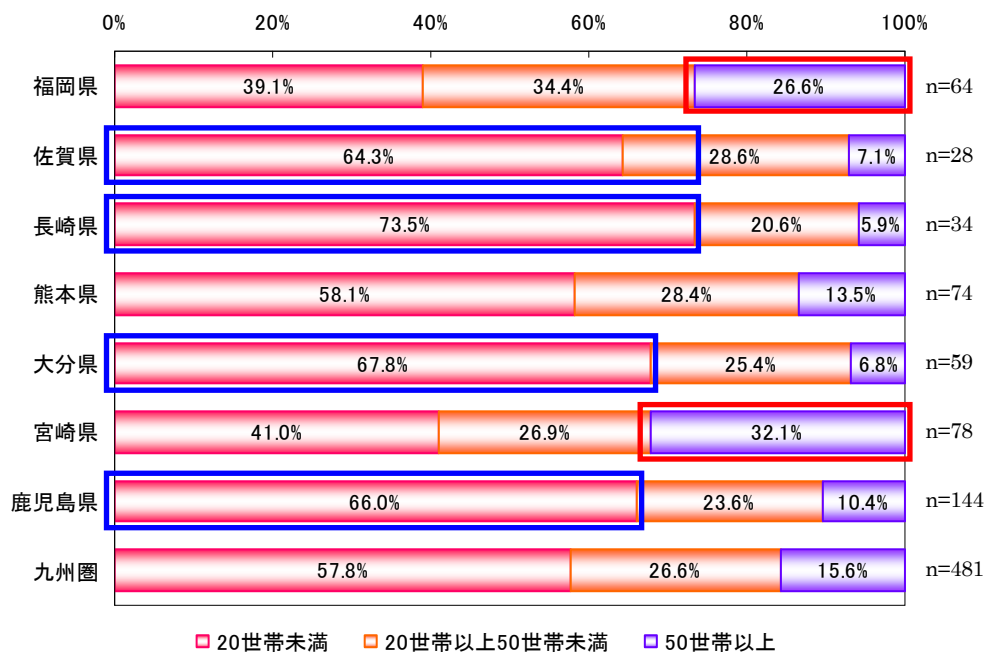


図 対象集落の県別・世帯規模別割合



## (2) 集落の高齢化率

・高齢化率が住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、集落の高齢化率を50%未満、50%～70%、70%以上の3つに区分し、集計を行った。

(ここでいう高齢化率とは、全集落人口に占める65歳以上人口の比率を示す。)

・高齢化集落(65歳以上人口が全人口に占める比率が50%以上の集落)の割合は、鹿児島県(81.9%)、長崎県(76.5%)、次いで大分県(74.6%)で、全体平均(62.1%)より高くなっている。

・一方、高齢化率が50%未満の集落の割合をみると、福岡県(71.9%)、佐賀県(60.7%)で高くなっている。

表 対象集落の県別・高齢化率

高齢化率		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	計(九州圏)
50%未満	度数	46	17	8	31	15	39	26	182
	%	71.9%	60.7%	23.5%	41.9%	25.4%	50.0%	18.1%	37.8%
50～70%	度数	12	10	16	31	23	24	54	170
	%	18.8%	35.7%	47.1%	41.9%	39.0%	30.8%	37.5%	35.3%
70%以上	度数	6	1	10	12	21	15	64	129
	%	9.4%	3.6%	29.4%	16.2%	35.6%	19.2%	44.4%	26.8%
計		64	28	34	74	59	78	144	481
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

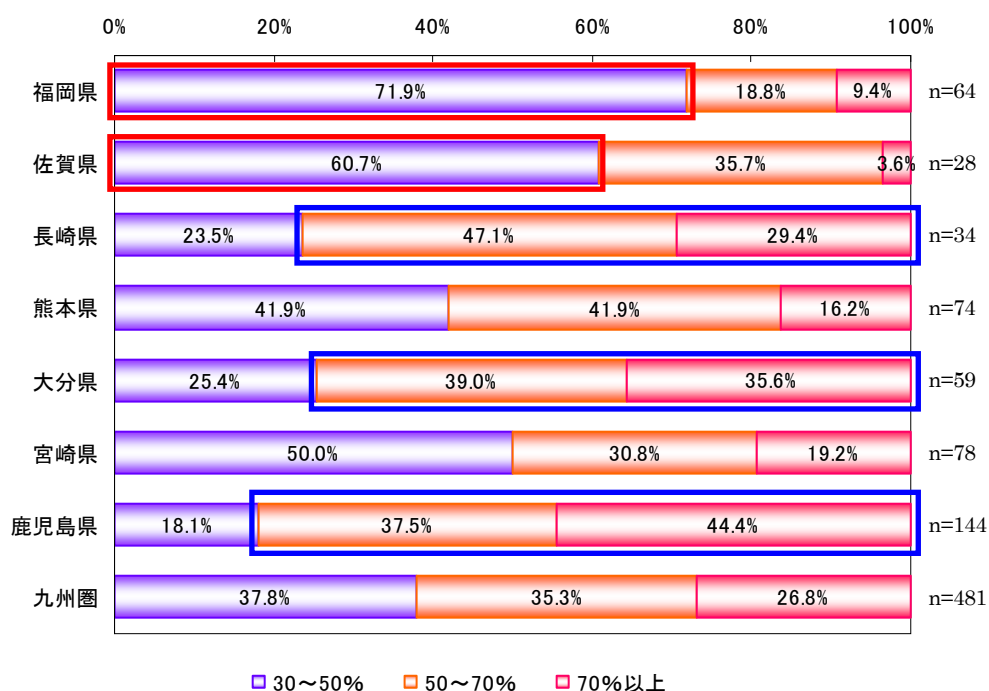


図 対象集落の県別・高齢化率

### (3) 集落の世帯規模・高齢化率との関係

- ・ 集落の世帯規模と高齢化率との関係について分析した。
- ・ 存続が危ぶまれる 481 集落のうち、世帯数 20 世帯未満、高齢化率 70%以上の集落が 113 集落あった。(下表参照)
- ・ 世帯規模が小さいほど、高齢化率 50%以上の集落の割合 (76.6%) は高くなっている。

表 世帯規模・高齢化率

世帯数		30~50%	50~70%	70%以上	計
20 世帯未満	度数	65	100	113	278
	%	23.4%	36.0%	40.6%	
20 世帯以上 50 世帯未満	度数	60	52	16	128
	%	46.9%	40.6%	12.5%	
50 世帯以上	度数	57	18	0	75
	%	76.0%	24.0%	0.0%	
計		182	170	129	481

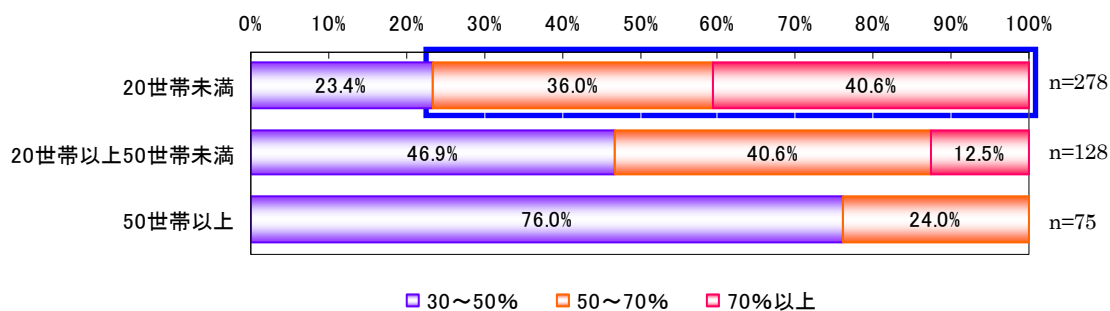


図 世帯規模・高齢化率

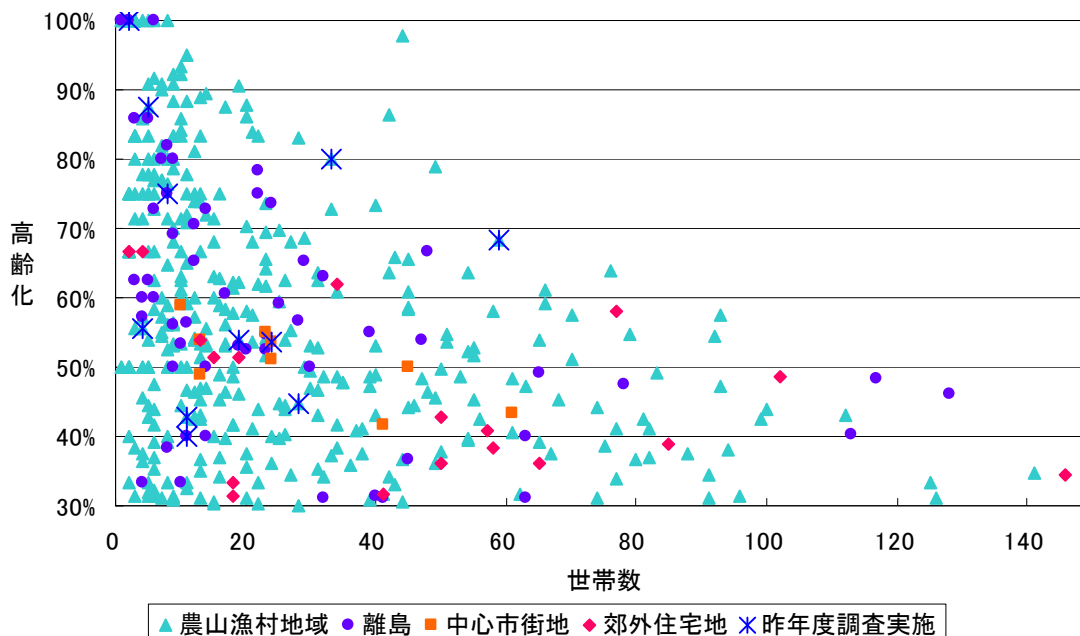


図 集落の世帯規模・高齢化率の関係

#### (4) 生活中心都市までの時間距離

- 生活中心都市までの時間距離が、住民共同活動、集落元気づくりの取組に対し、影響があるかを分析するため、生活中心都市までの時間距離を15分未満、15分～30分、30分～45分、45分～1時間、1時間以上の5段階に区分し、集計を行った。

(時間距離は集落中心部から生活中心都市の市役所(本庁舎)までとした。また、算出にあたっては全国総合交通分析システム(NITAS<sup>※</sup>)を用いて算出した)。

- 生活中心都市までの時間距離が30分未満の集落の割合は、佐賀県(89.3%)、福岡県(81.2%)、次いで大分県(77.2%)で高くなっている。
- 生活中心都市までの時間距離が60分以上の集落の約7割は離島が占める。
- 生活中心都市までの時間距離が60分以上の集落の割合は、鹿児島県(31.3%)、次いで長崎県(29.4%)と離島の多い県で高くなっている。

表 生活中心都市までの時間距離

時間距離		福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	計(九州圏)
15分未満	度数	23	11	8	5	14	8	28	97
	%	35.9%	39.3%	23.5%	6.8%	24.6%	11.0%	19.4%	20.5%
15～30分	度数	29	14	8	33	30	29	48	191
	%	45.3%	50.0%	23.5%	44.6%	52.6%	39.7%	33.3%	40.3%
30～45分	度数	11	3	1	27	12	18	20	92
	%	17.2%	10.7%	2.9%	36.5%	21.1%	24.7%	13.9%	19.4%
45～60分	度数	0	0	7	5	1	7	3	23
	%	0.0%	0.0%	20.6%	6.8%	1.8%	9.6%	2.1%	4.9%
60分以上	度数	1	0	10	4	0	11	45	71
	%	1.6%	0.0%	29.4%	5.4%	0.0%	15.1%	31.3%	15.0%
計		64	28	34	74	57	73	144	474
		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

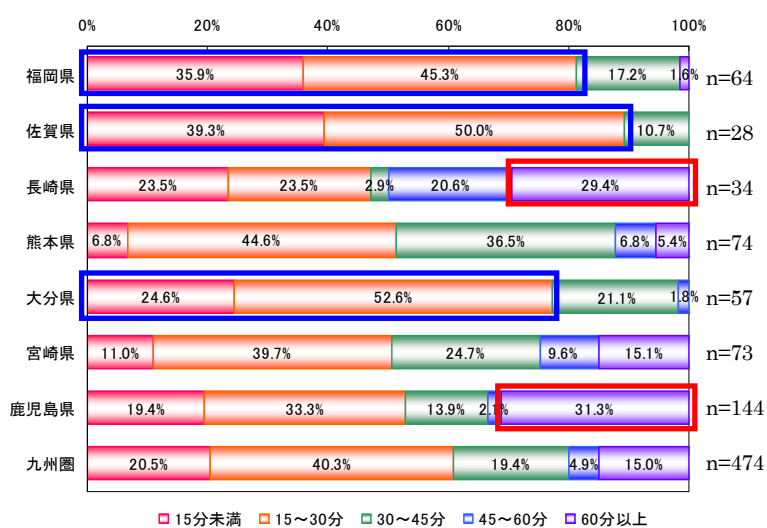


図 生活中心都市までの時間距離

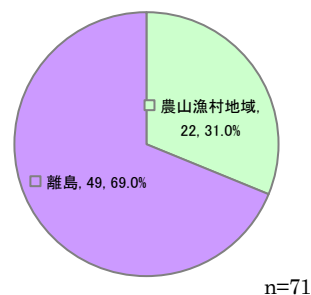


図 生活中心都市までの時間距離が60分以上の集落

## (5) 集落類型区分

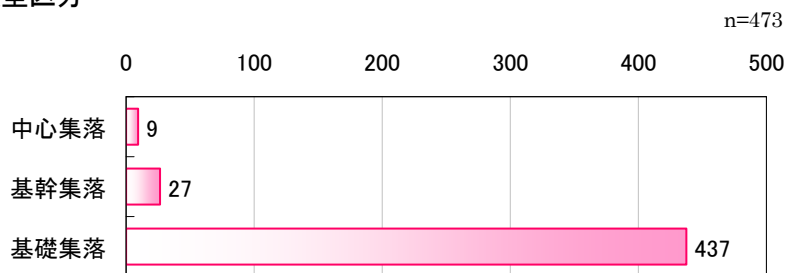


図 集落類型区分 (単位：集落数)

### ※集落類型区分の定義

○集落の類型区分については、明確な定義はないが、ここでは以下のように分類した。

**中心集落**：地域の中心的な集落であり、古くから地域の要所となっていたため、役場等の行政機関や事務所等が集積する。

**基幹集落**：基礎集落の分布の中にあつて、住民の日常生活上、集落間の要となつて存続している集落であり、主として谷筋の分岐点やその他バス停留所があるなど交通上の要所で、日常的な買い物ができるような商店も立地している（あるいはかつては立地していた）地域に分布する。

**基礎集落**：地域社会を構成する最も基礎的かつ原单位的な集落であり、いずれの地域にも広く分布する。

## (6) まとめ

- ・集落単位の定義は地域により異なり、福岡県や宮崎県においては、集落規模が大きく、小規模集落が少ないことがわかつた。一方で長崎県や大分県、鹿児島県、佐賀県では20世帯未満の集落が6割を超えて存在し、これら地域の集落の高齢化率も高いことが判明した。（今回調査の対象とした集落の世帯数－高齢化率の分布を見ても、世帯数が少ないほど高齢化率が高い傾向にあり、世帯数が多い集落（150世帯以上）では高齢化率が50%を超える集落はほとんど存在しなかつた。
- ・このことから、集落規模と高齢化率には関係性があり、集落規模が大きい集落ほど高齢化の影響を受けにくく、集落の小規模化に伴い、高齢化が高く、その影響について把握する必要があることがわかつた。

## 2.2. 集落の住民共同活動の実施状況(質問1)

- 集落の住民共同活動の実施状況をみるため、下記の項目について、それぞれ現在までの実施状況と、その要因をたずねた。
- 各共同活動の実施状況の変化として、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」、「以前から行われていない」、「以前から現在まで引き続き行われている」、「最近になって行われるようになった」の4つの選択肢より選んでいただいた。  
(なお、ここでいう以前とは「戦後(昭和20年以降)、当該集落に最も多くの人が住んでいた頃」を想定した。)
- また、現在までの活動状況の変化要因として「特に理由はない」、「人口の減少」、「人口の高齢化」、「農外就労の増加」、「農林業の低迷」、「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」、「民間組織の支援」の内より選んでいただいた。

### ①「農林作業」の実施状況とその要因

- 「荒廃農地の共同維持管理」
- 「農作業の手間がえ・結い」
- 「集落共有の山林・牧野の共同作業」

### ②「共有資産管理」の実施状況とその要因

- 「集落道の草刈」
- 「用水路の清掃」
- 「神社・仏閣・墓地の維持管理」
- 「集落所・広場等の維持管理」

### ③「冠婚葬祭・伝統継承等」の実施状況とその要因

- 「集落内での葬儀の実施」
- 「集落内での祭り」
- 「伝統芸能の継承活動」
- 「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」

(1) 農林作業の実施状況とその要因

○荒廃農地の共同維持管理の実施状況

- 「荒廃農地の共同維持管理」は、「以前から行われていない」(67.6%)と「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(20.3%)を合わせると8割を超える。また、「最近になって行われるようになった」(5.0%)集落があった。

○荒廃農地の共同維持管理が行われなくなった主な要因

- 「荒廃農地の共同維持管理」が行われなくなった要因として「人口の高齢化」(21集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の減少」(11集落)となっている。

○荒廃農地の共同維持管理が行われるようになった主な要因

- 「荒廃農地の共同維持管理」が最近行われるようになった要因として「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(6集落)を挙げる集落があった。

表 荒廃農地の共同維持管理の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
荒廃農地の共同維持管理	度数	190	57	20	14	281
	%	67.6%	20.3%	7.1%	5.0%	100%

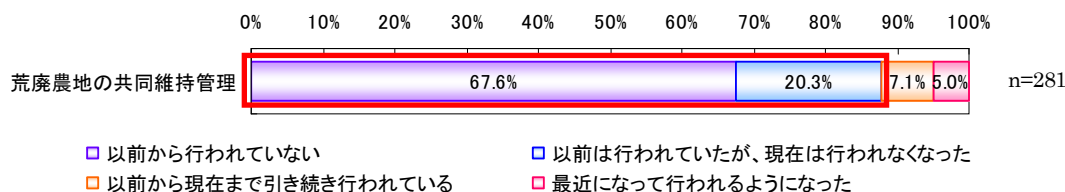


図 荒廃農地の共同維持管理

表 荒廃農地の共同維持管理

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	97	3	6	0	106
	%	74.6%	7.7%	42.9%	0.0%	54.6%
人口の減少	度数	12	11	1	1	25
	%	9.3%	28.2%	7.1%	9.1%	13.0%
人口の高齢化	度数	14	21	5	2	42
	%	10.9%	53.8%	35.7%	18.2%	21.8%
農外就労の増加	度数	5	2	0	1	8
	%	3.9%	5.1%	0.0%	9.1%	4.1%
農林業の低迷	度数	2	1	0	0	3
	%	1.6%	2.6%	0.0%	0.0%	1.6%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	1	2	6	9
	%	0.0%	2.6%	14.3%	54.5%	4.7%
民間組織の支援	度数	0	0	0	1	1
	%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	0.5%
計	度数	130	39	14	11	194
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○農作業の手間がえ・結いの実施状況

- ・「農作業の手間がえ・結い」は、「以前から行われていない」(24.1%)と「以前は行われていたが現在に行われなくなった」(62.2%)を合わせると8割を超える。

○農作業の手間がえ・結いが行われなくなった主な要因

- ・「農作業の手間がえ・結い」が行われなくなった要因として「人口の減少」(36 集落)、「人口の高齢化」(35 集落)を挙げる集落が多く、次いで「農外就労の増加」(31 集落)となっている。

○農作業の手間がえ・結いが行われるようになった主な要因

- ・「農作業の手間がえ・結い」が最近行われるようになった要因として「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(2 集落)を挙げる集落があった。

表 農作業の手間がえ・結いの実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
農作業の手間がえ・結い	度数	69	178	35	4	286
	%	24.1%	62.2%	12.2%	1.4%	100%

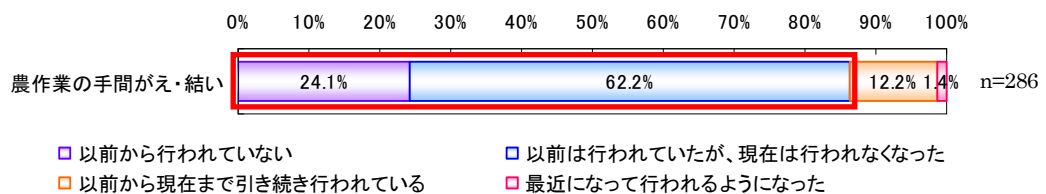


図 農作業の手間がえ・結い

表 農作業の手間がえ・結いの実施状況の変化要因

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	34	11	7	0	52
	%	73.9%	8.5%	38.9%	0.0%	26.7%
人口の減少	度数	6	36	1	0	43
	%	13.0%	27.9%	5.6%	0.0%	22.1%
人口の高齢化	度数	4	35	5	0	44
	%	8.7%	27.1%	27.8%	0.0%	22.6%
農外就労の増加	度数	1	31	1	0	33
	%	2.2%	23.8%	5.6%	0.0%	16.8%
農林業の低迷	度数	1	16	0	0	17
	%	2.2%	12.4%	0.0%	0.0%	8.7%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	2	2	4
	%	0.0%	0.0%	11.1%	100.0%	2.1%
民間組織の支援	度数	0	1	2	0	3
	%	0.0%	0.8%	11.1%	0.0%	1.5%
計	度数	46	130	18	2	196
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○集落共有の山林・牧野の共同作業の実施状況

- ・「集落共有の山林・牧野の共同作業」は、「以前から行われていない」(35.4%)と「以前は行われていた」(37.5%)を合わせると7割を超える。

○集落共有の山林・牧野の共同作業が行われなくなった主な要因

- ・「集落共有の山林・牧野の共同作業」が行われなくなった要因として、「人口の高齢化」(25 集落)、「人口の減少」(21 集落)を挙げる集落が多く、次いで「農林業の低迷」(19 集落)となっている。

○集落共有の山林・牧野の共同作業が行われるようになった主な要因

- ・「集落共有の山林・牧野の共同作業」が「最近行われるようになった」集落は存在しなかった。

表 集落共有の山林・牧野の共同作業の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落共有の山林・牧野の共同作業	度数	101	107	77	0	284
	%	35.4%	37.5%	27.0%	0.0%	100%

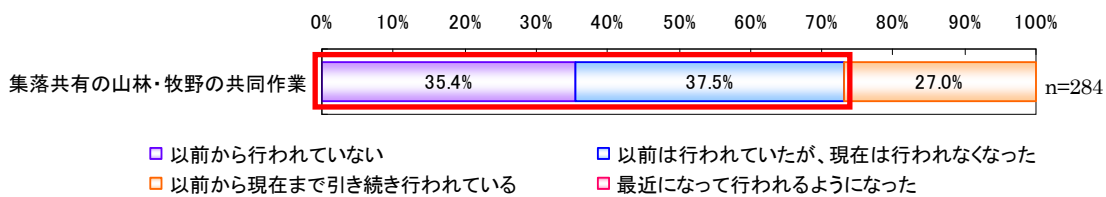


図 集落共有の山林・牧野の共同作業

表 集落共有の山林・牧野などの共同作業の実施状況の変化要因

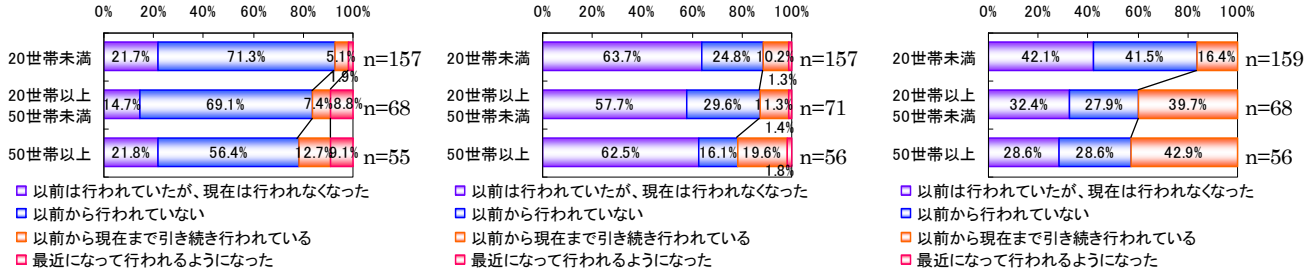
活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数 %	51 75.0%	4 5.5%	21 50.0%	0 0.0%	76 41.5%
人口の減少	度数 %	5 7.5%	21 28.8%	2 4.8%	0 0.0%	28 15.4%
人口の高齢化	度数 %	8 11.9%	25 34.2%	5 11.9%	0 0.0%	38 20.9%
農外就労の増加	度数 %	2 3.0%	5 5.5%	0 0.0%	0 0.0%	6 3.3%
農林業の低迷	度数 %	2 3.0%	19 26.0%	1 2.4%	0 0.0%	22 12.1%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	9 21.4%	0 0.0%	9 4.9%
民間組織の支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	4 9.5%	0 0.0%	4 2.2%
計	度数 %	68 100%	73 100%	42 100%	0 0%	183 100%



### ○「農林作業」と世帯規模の関係

・世帯規模が大きいほど、「以前から現在まで引き続き行われている」という割合が高くなっている。

#### <世帯規模>



荒廃農地の共同維持管理

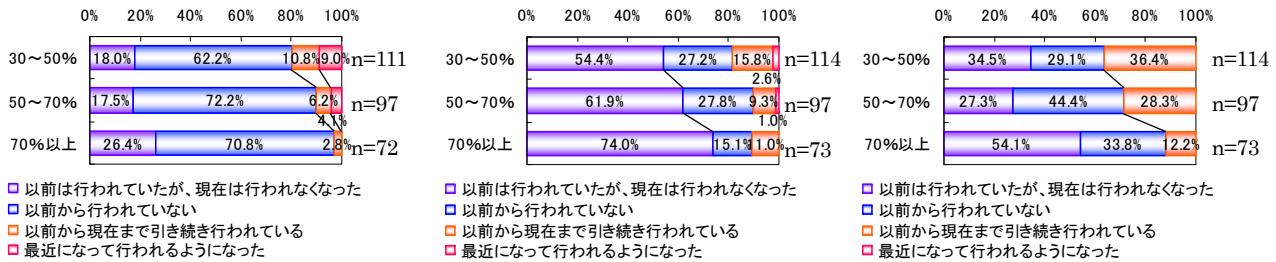
農作業の手間がえ・結い

集落共有の山林・牧野の共同作業

### ○「農林作業」と高齢化率の関係

・高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」という割合が高くなっている。

#### <高齢化率>



荒廃農地の共同維持管理

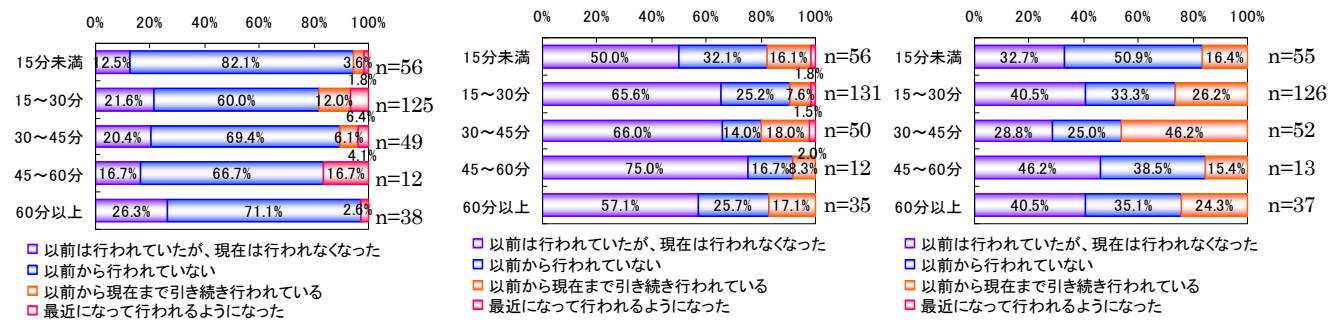
農作業の手間がえ・結い

集落共有の山林・牧野の共同作業

### ○「農林作業」と生活中心都市までの距離との関係

・生活中心都市までの時間距離との関係では、一定の傾向は見られなかった。

#### <生活中心都市までの時間距離>



荒廃農地の共同維持管理

農作業の手間がえ・結い

集落共有の山林・牧野の共同作業

(2) 共有資産管理の実施状況とその要因

○集落道の草刈などの共同作業の実施状況

- 「集落道の草刈りなどの共同作業」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(84.1%)と回答した集落が最も多くなっている。

○集落道の草刈などの共同作業が行われなくなった主な要因

- 「集落道の草刈りなどの共同作業」が「行われなくなった」主な要因として「人口の高齢化」(9集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の減少」(7集落)となっている。

○集落道の草刈などの共同作業が行われるようになった主な要因

- 「集落道の草刈りなどの共同作業」が「最近行われるようになった」主な要因は「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(2集落)となっている。

表 集落道の草刈などの共同作業の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落道の草刈などの共同作業	度数 %	14 4.5%	28 8.9%	264 84.1%	8 2.5%	314 100%

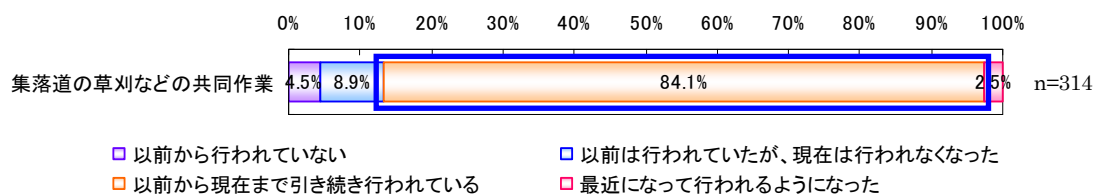


図 集落道の草刈などの共同作業の実施状況

表 集落道の草刈などの共同作業

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数 %	7 77.8%	2 10.5%	71 54.6%	0 0.0%	80 49.7%
人口の減少	度数 %	1 11.1%	7 36.8%	11 8.5%	0 0.0%	19 11.9%
人口の高齢化	度数 %	1 11.1%	9 47.4%	12 9.3%	0 0.0%	22 13.8%
農外就労の増加	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	1 0.8%	0 0.0%	1 0.6%
農林業の低迷	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	1 0.6%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数 %	0 0.0%	1 5.3%	30 23.3%	2 66.7%	33 20.6%
民間組織の支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	5 3.9%	0 0.0%	5 3.1%
計	度数 %	9 100%	19 100%	130 100%	3 100%	161 100%

○用水路の清掃などの共同作業の実施状況

- ・「用水路の清掃などの共同作業」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(63.1%)と回答した集落が多くなっている。

○用水路の清掃などの共同作業が行われなくなった主な要因

- ・「用水路の清掃などの共同作業」が「行われなくなった」主な要因として「人口の減少」(13集落)、「人口の高齢化」(13集落)を挙げる集落が多くなっている。

○用水路の清掃などの共同作業が行われるようになった主な要因

- ・「用水路の清掃などの共同作業」が「最近行われるようになった」主な要因は「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(5集落)となっている。

表 用水路の清掃などの共同作業

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
用水路の清掃などの共同作業	度数	48	49	186	12	295
	%	16.3%	16.6%	63.1%	4.1%	100%

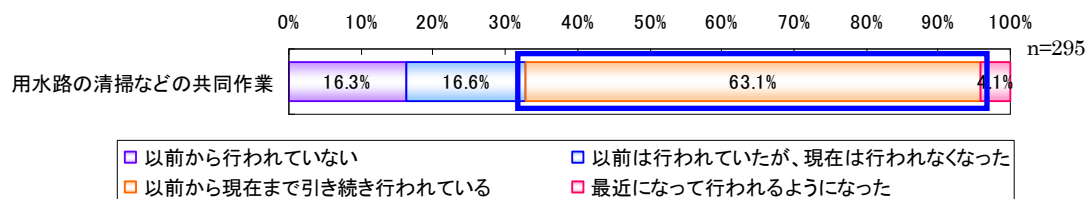


図 用水路の清掃などの共同作業の実施状況

表 用水路の清掃などの共同作業

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	23	2	60	0	85
	%	85.2%	6.1%	63.2%	0.0%	52.8%
人口の減少	度数	3	13	5	0	21
	%	11.1%	39.4%	5.3%	0.0%	13.1%
人口の高齢化	度数	1	13	10	0	24
	%	3.7%	39.4%	10.6%	0.0%	15.0%
農外就労の増加	度数	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.6%
農林業の低迷	度数	0	4	0	0	4
	%	0.0%	12.1%	0.0%	0.0%	2.5%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	1	15	5	21
	%	0.0%	3.0%	16.0%	83.3%	13.1%
民間組織の支援	度数	0	0	4	1	5
	%	0.0%	0.0%	4.3%	16.7%	3.1%
計	度数	27	33	95	6	161
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○神社・仏閣・墓地の維持管理の実施状況

・「神社・仏閣・墓地の維持管理」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(77.4%)と回答した集落が多くなっている。

○神社・仏閣・墓地の維持管理が行われなくなった主な要因

・「神社・仏閣・墓地の維持管理」が「行われなくなった」主な要因として「人口の高齢化」(9集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の減少」(7集落)となっている。

○神社・仏閣・墓地の維持管理が行われるようになった主な要因

・「神社・仏閣・墓地の維持管理」が「最近行われるようになった」主な要因は「とくに理由はない」(2集落)となっている。

表 神社・仏閣・墓地の維持管理

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
神社・仏閣・墓地の維持管理	度数	39	25	233	4	301
	%	13.0%	8.3%	77.4%	1.3%	100%

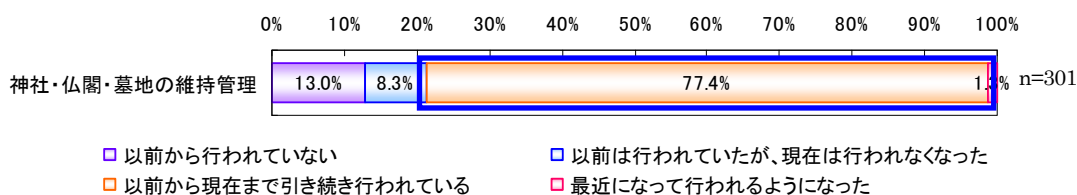


図 神社・仏閣・墓地の維持管理の実施状況

表 神社・仏閣・墓地の維持管理

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	20	1	85	2	108
	%	80.0%	5.9%	75.2%	100.0%	68.8%
人口の減少	度数	3	7	7	0	17
	%	12.0%	41.2%	6.3%	0.0%	10.9%
人口の高齢化	度数	1	9	9	0	19
	%	4.0%	52.9%	8.0%	0.0%	12.2%
農外就労の増加	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
農林業の低迷	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	6	0	6
	%	0.0%	0.0%	5.4%	0.0%	3.8%
民間組織の支援	度数	1	0	6	0	7
	%	4.0%	0.0%	5.4%	0.0%	4.5%
計	度数	25	17	113	2	157
	%	100%	100%	100%	100%	100%

○集会所・広場等の維持管理の実施状況

- ・「集会所・広場等の維持管理」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(78.2%)と回答した集落が多くなっている。

○集会所・広場等の維持管理が行われなくなった主な要因

- ・「集会所・広場等の維持管理」が「行われなくなった」主な要因は「人口の減少」(6 集落)、「人口の高齢化」(4 集落)となっている。

○集会所・広場等の維持管理が行われるようになった主な要因

- ・「集会所・広場等の維持管理」が「最近行われるようになった」主な要因は「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」(1 集落)となっている。

表 集会所・広場等の維持管理

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落所・広場等の維持管理	度数	39	19	230	6	294
	%	13.3%	6.5%	78.2%	2.0%	100%

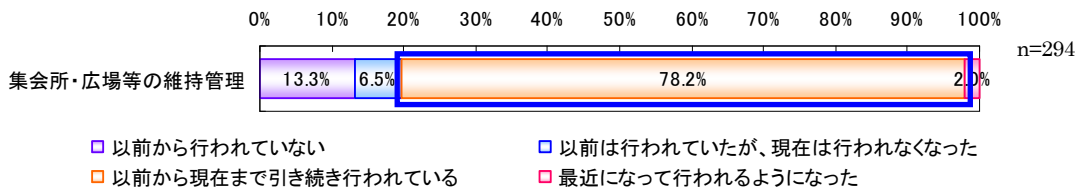


図 集会所・広場等の維持管理の実施状況

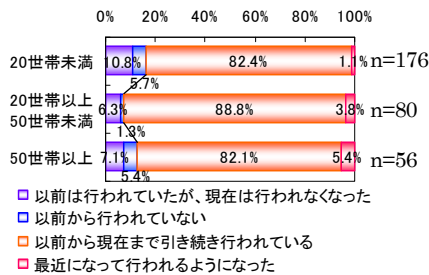
表 集会所・広場等の維持管理

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	24	0	86	0	110
	%	92.3%	0.0%	76.1%	0.0%	73.3%
人口の減少	度数	1	6	3	0	10
	%	3.8%	60.0%	2.7%	0.0%	6.7%
人口の高齢化	度数	1	4	11	0	16
	%	3.8%	40.0%	9.8%	0.0%	10.7%
農外就労の増加	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
農林業の低迷	度数	0	0	1	0	1
	%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	7	1	8
	%	0.0%	0.0%	6.3%	100.0%	5.4%
民間組織の支援	度数	0	0	5	0	5
	%	0.0%	0.0%	4.5%	0.0%	3.4%
計	度数	26	10	113	1	150
	%	100%	100%	100%	100%	100%

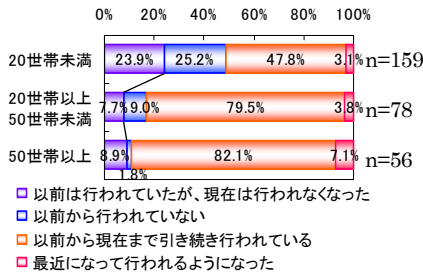
### ○共有資産管理と世帯規模の関係

- ・「用水路の清掃などの共同作業」、「神社・仏閣・墓地の維持管理」、「集落所・広場等の維持管理」は、世帯規模が小さいほど、「以前は行われていたが、現在は行われていない」の割合が高くなっている。
- ・「集落道の草刈りなどの共同作業」は、一定の傾向は見られず、「以前から現在まで行われている」とする割合が8割を超える。

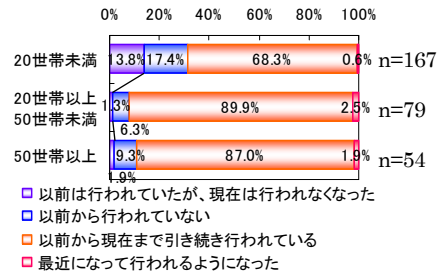
### <世帯規模>



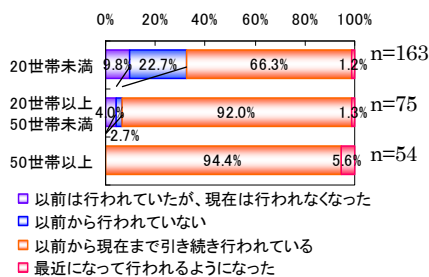
集落道の草刈りなどの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



神社・仏閣・墓地の維持管理

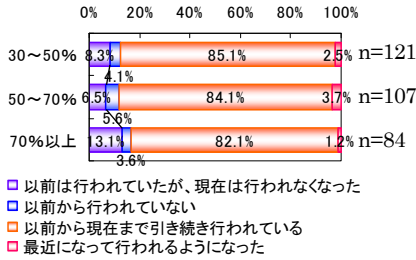


集落所・広場等の維持管理

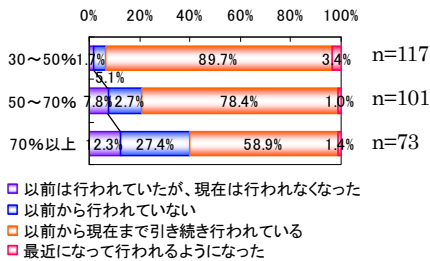
○共有資産管理と高齢化率の関係

- 「用水路の清掃などの共同作業」、「神社・仏閣・墓地の維持管理」、「集落所・広場等の維持管理」は、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われていない」の割合が高くなっている。
- 「集落道の草刈りなどの共同作業」は、一定の傾向は見られず、「以前から現在まで行われている」とする割合が8割を超える。

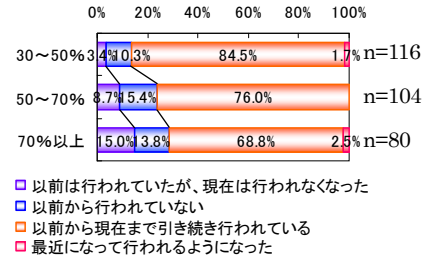
<高齢化率>



集落道の草刈りなどの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



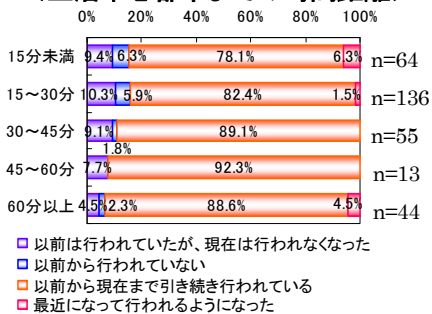
神社・仏閣・墓地の維持管理

集落所・広場等の維持管理

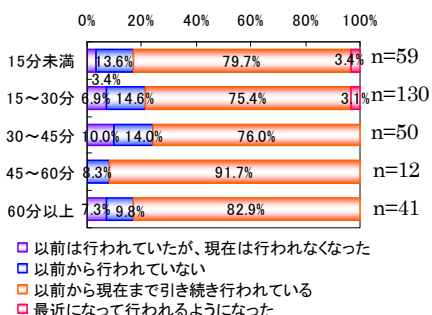
○「共有資産管理」と生活中心都市までの時間距離の関係

- 生活中心都市までの時間距離との関係では、一定の傾向は見られなかった。

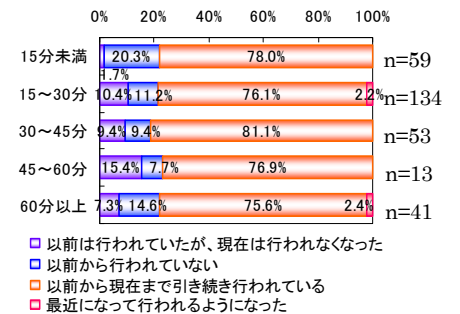
<生活中心都市までの時間距離>



集落道の草刈りなどの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



神社・仏閣・墓地の維持管理

集落所・広場等の維持管理

### (3) 冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況とその要因

○集落内での葬儀の実施状況

- 「集落内での葬儀の実施」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(55.2%)と回答した集落が最も多く、次いで「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(41.1%)と回答した集落であった。

○集落内での葬儀が行われなくなった主な要因

- 「集落内での葬儀の実施」が「行われなくなった」主な要因は、「人口の減少」(36集落)が多く、次いで「人口の高齢化」(34集落)となっている。

○集落内での葬儀が行われるようになった主な要因

- 「集落内での葬祭の実施」は、「最近になって行われるようになった」集落は存在しなかった。

表 冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
集落内での葬儀の実施	度数 %	11 3.7%	122 41.1%	164 55.2%	0 0.0%	297 100%

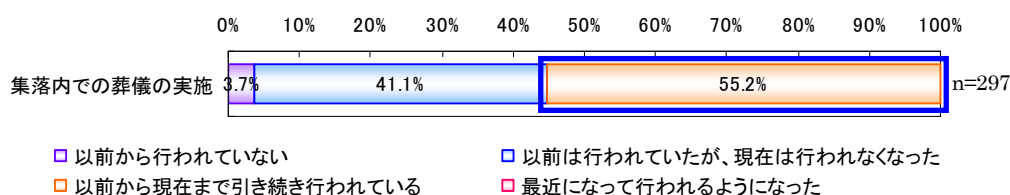


図 集落内での葬儀の実施状況

表 集落内での葬儀の実施

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数 %	4 80.0%	14 15.4%	54 72.0%	0 0.0%	72 42.1%
人口の減少	度数 %	1 20.0%	36 39.6%	5 6.7%	0 0.0%	42 24.6%
人口の高齢化	度数 %	0 0.0%	34 37.0%	7 9.3%	0 0.0%	41 23.8%
農外就労の増加	度数 %	0 0.0%	2 2.2%	1 1.3%	0 0.0%	3 1.8%
農林業の低迷	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数 %	0 0.0%	3 3.3%	4 5.3%	0 0.0%	7 4.1%
民間組織の支援	度数 %	0 0.0%	3 3.3%	4 5.3%	0 0.0%	7 4.1%
計	度数 %	5 100%	92 100%	75 100%	0 0%	172 100%



○集落内での祭りの実施状況

- ・「集落内での祭り」の実施は、「以前から現在まで引き続き行われている」(62.1%)と回答した集落が最も多くなっている。

○集落内での祭りが行われなくなった主な要因

- ・「集落内での祭り」が「行われなくなった」主な要因は「人口の減少」(37 集落)が多く、次いで「人口の高齢化」(12 集落)となっている。

○集落内での祭りが行われるようになった主な要因

- ・「集落内での祭り」は、「最近になって行われるようになった」集落は存在しなかった。

表 集落内での祭り

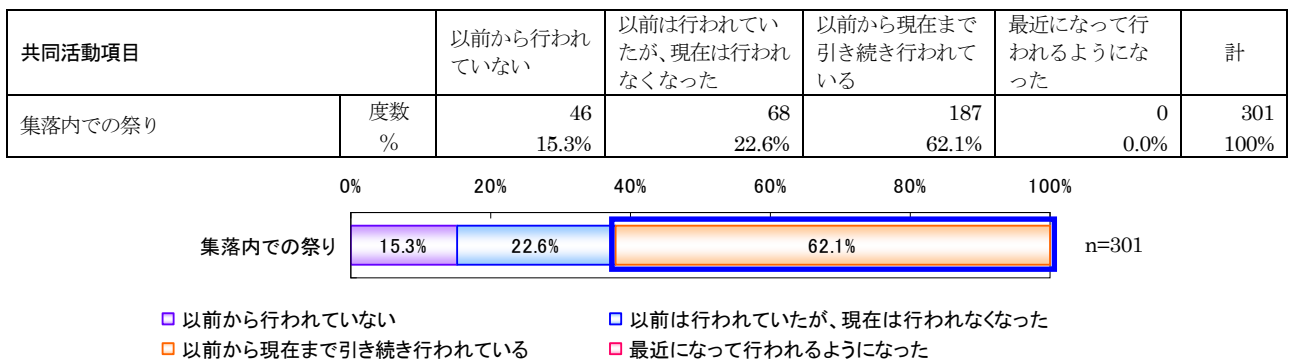


図 集落内での祭りの実施状況

表 集落内での祭り

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数 %	25 78.1%	2 3.9%	60 69.8%	0 0.0%	87 51.5%
人口の減少	度数 %	6 18.8%	37 71.2%	10 11.6%	0 0.0%	53 31.2%
人口の高齢化	度数 %	1 3.1%	12 23.5%	7 8.1%	0 0.0%	20 11.8%
農外就労の増加	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
農林業の低迷	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数 %	0 0.0%	1 2.0%	5 5.8%	0 0.0%	6 3.6%
民間組織の支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	4 4.7%	0 0.0%	4 2.4%
計	度数 %	32 100%	52 100%	86 100%	0 0%	170 100%

○伝統芸能の継承活動の実施状況

- ・「伝統芸能の継承活動」は、「以前から行われていない」(47.2%)が最も高く、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(26.6%)を合わせると7割を超える。

○伝統芸能の継承活動が行われなくなった主な要因

- ・「伝統芸能の継承活動」が「行われなくなった」主な要因として「人口の減少」(38集落)が多く、次いで「人口の高齢化」(12集落)となっている。

表 伝統芸能の継承活動

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
伝統芸能の継承活動	度数	135	76	72	3	286
	%	47.2%	26.6%	25.2%	1.0%	100%

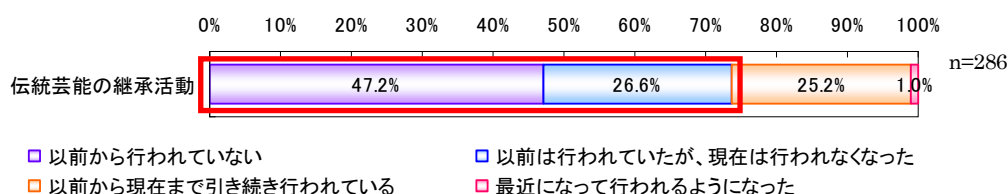


図 伝統芸能の継承活動の実施状況

表 伝統芸能の継承活動

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数	70	0	23	1	94
	%	81.4%	0.0%	57.5%	100.0%	52.5%
人口の減少	度数	10	38	5	0	53
	%	11.8%	73.1%	12.5%	0.0%	29.8%
人口の高齢化	度数	5	12	4	0	21
	%	5.9%	23.1%	10.0%	0.0%	11.8%
農外就労の増加	度数	1	2	0	0	3
	%	1.2%	3.8%	0.0%	0.0%	1.7%
農林業の低迷	度数	0	0	0	0	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
役場や農協、普及所などの助言・指導、支援	度数	0	0	5	0	5
	%	0.0%	0.0%	12.5%	0.0%	2.8%
民間組織の支援	度数	0	0	3	0	3
	%	0.0%	0.0%	7.5%	0.0%	1.7%
計	度数	86	52	40	1	179
	%	100%	100%	100%	100%	100%

### ○運動会や旅行などのレクリエーションの実施状況

- ・「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」は、「以前から現在まで引き続き行われている」(41.3%)が全体で最も高い割合を占め、「以前から行われていない」(18.1%)と「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」(35.9%)を合わせると5割を超える。

### ○運動会や旅行などのレクリエーションが行われなくなった主な要因

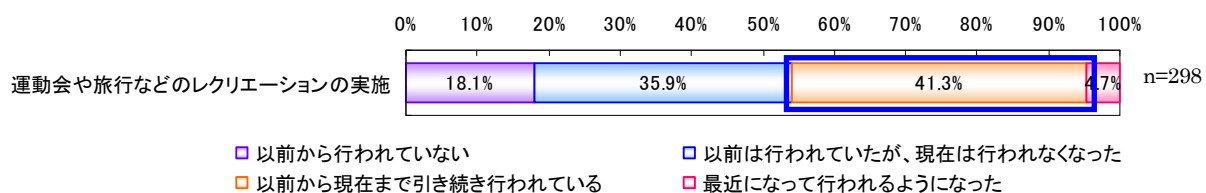
- ・「運動会や旅行などのレクリエーション」が行われなくなった主な要因として「人口の減少」(47集落)を挙げる集落が多く、次いで「人口の高齢化」(32集落)となっている。

### ○運動会や旅行などのレクリエーションが行われるようになった主な要因

- ・「運動会や旅行などのレクリエーション」が、「最近になって行われるようになった」集落は少なくなっている。

表 運動会や旅行などのレクリエーションの実施

共同活動項目		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
運動会や旅行などのレクリエーションの実施	度数 %	54 18.1%	107 35.9%	123 41.3%	14 4.7%	298 100%



### 図 運動会や旅行などのレクリエーションの実施状況

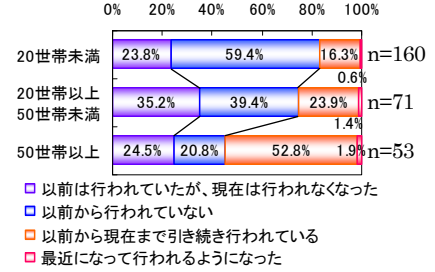
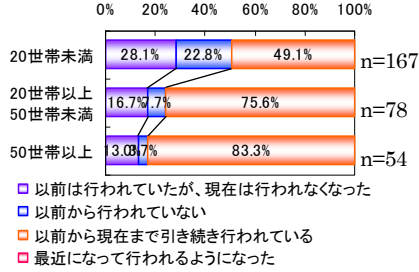
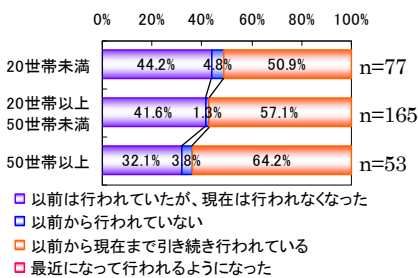
表 運動会や旅行などのレクリエーションの実施

活動状況の変化要因		以前から行われていない	以前は行われていたが、現在は行われなくなった	以前から現在まで引き続き行われている	最近になって行われるようになった	計
特に理由はない	度数 %	27 75.0%	1 1.2%	38 60.3%	2 50.0%	68 37.0%
人口の減少	度数 %	6 16.7%	47 58.0%	5 7.9%	1 25.0%	59 32.1%
人口の高齢化	度数 %	3 8.3%	32 39.0%	6 9.5%	0 0.0%	41 22.2%
農外就労の増加	度数 %	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
農林業の低迷	度数 %	0 0.0%	1 1.2%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%
役場や農協、普及所などの助言・指導・支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	11 17.5%	1 25.0%	12 6.5%
民間組織の支援	度数 %	0 0.0%	0 0.0%	3 4.8%	0 0.0%	3 1.6%
計	度数 %	36 100%	82 100%	63 100%	4 100%	185 100%

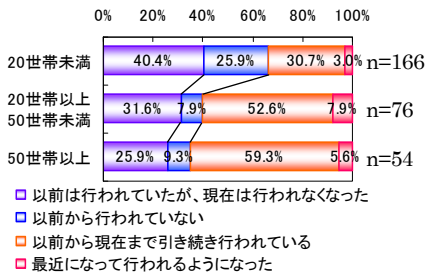
### ○冠婚葬祭・伝統継承等と世帯規模の関係

- ・世帯規模が小さいほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」の割合は高くなり、逆に「以前から現在まで引き続き行われている」の割合は低くなっている。

#### <世帯規模>



#### 集落内での葬儀の実施



#### 集落内での祭り

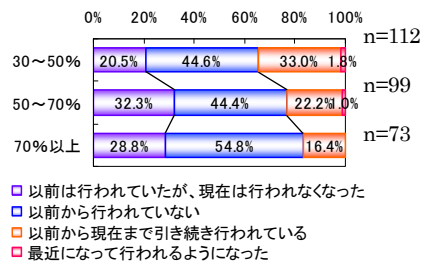
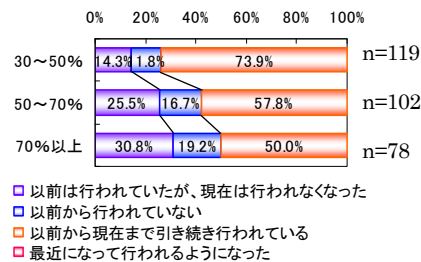
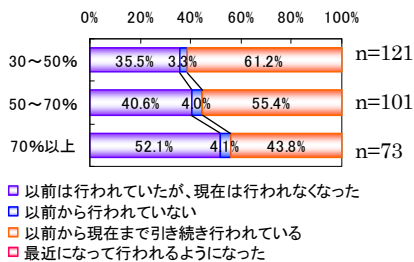
#### 伝統芸能の継承活動

#### 運動会や旅行などのレクリエーションの実施

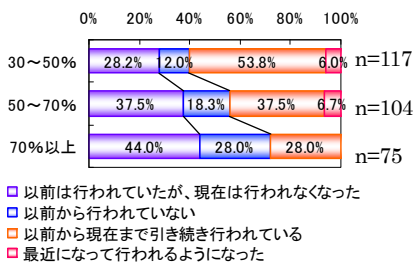
### ○冠婚葬祭・伝統継承等と高齢化率の関係

- ・高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」の割合は高くなり、逆に「以前から現在まで引き続き行われている」の割合は低くなっている。

#### <高齢化率>



#### 集落内での葬儀の実施



#### 集落内での祭り

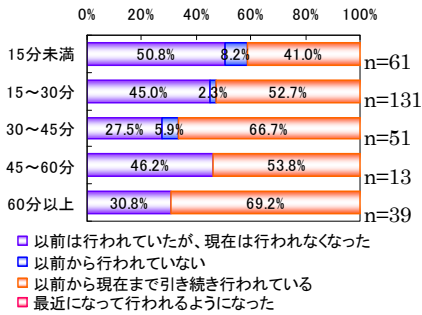
#### 伝統芸能の継承活動

#### 運動会や旅行などのレクリエーションの実施

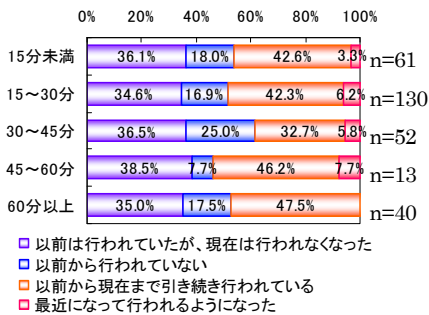
○「冠婚葬祭・伝統継承等」と生活中心都市までの時間距離の関係

・生活中心都市までの時間距離との関係では、一定の傾向は見られなかった。

<生活中心都市までの時間距離>

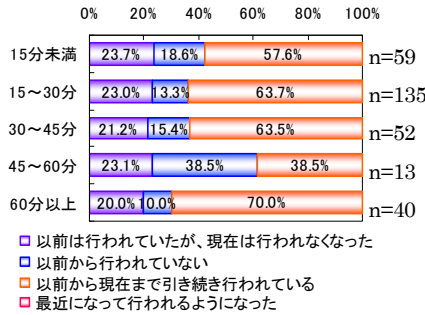


集落内での葬儀の実施

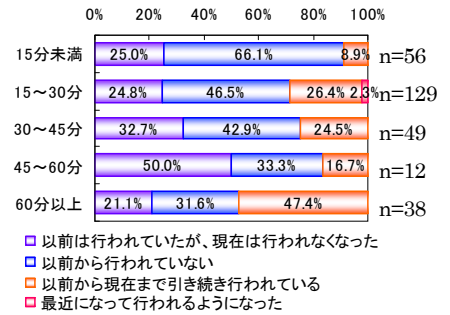


運動会や旅行などの

レクリエーションの実施



集落内での祭り



伝統芸能の継承活動

#### (4) まとめ

##### ①「農林作業」の実施状況とその要因について

###### ○「農林作業」の実施状況

- ・ 農林作業の共同活動は行われていない（「以前から行われていない」または「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」）と回答した集落が全体の約 8 割を占める。
- ・ 農林作業の実施状況は、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」という回答が高くなっている。

###### ○要因

- ・ 農林作業の住民共同作業が行われなくなった主な要因として「人口の減少」、「人口の高齢化」を挙げる集落が多くなっている。「農作業の手間がえ・結い」では「農外就労の増加」や「農林業の低迷」を、「集落共有の山林・牧野の共同作業」では「農林業の低迷」を挙げる集落も多くなっている。
- ・ 農林作業の住民共同作業が最近行われるようになった主な要因としては、「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」が多くなっている。

##### ②「共有資産管理」の実施状況とその要因について

###### ○「共有資産管理」の実施状況

- ・ 共有資産管理の実施状況については、6～8 割の集落が「以前から現在まで引き続き行われている」と回答しており、農林作業や冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況に比べ、実施している集落の割合が高くなっている。
- ・ 「用水路の清掃などの共同作業」、「神社・仏閣・墓地の維持管理」、「集落所・広場等の維持管理」については、世帯規模が小さいほど、また、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われていない」の割合が高くなっており、特に、高齢化率でその傾向が顕著である。
- ・ 「集落道の草刈りなどの共同作業」については、世帯規模、高齢化率などとの関係では、一定の傾向は見られず、「以前から現在まで行われている」とする割合が 8 割を超える。これは、日常生活に直接影響が及ぶことに起因するものと考えられる。

###### ○要因

- ・ 集落の共有資産管理が行われなくなった主な要因は、「人口の減少」、「人口の高齢化」を挙げる集落が多くなっている。
- ・ 共有資産管理が最近行われるようになった主な要因は、「役場や農協、普及所などの助言・指導、支援」が多くなっている。

##### ③「冠婚葬祭・伝統継承等」の実施状況とその要因について

###### ○「冠婚葬祭・伝統継承等」の実施状況

- ・ 冠婚葬祭・伝統継承等の実施状況を見ると、「集落内での祭り」や「集落内での葬儀の実施」、「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」では、「以前から現在まで引き続き行われている」が

最も高く、4～6割を占める。「伝統芸能の継承活動」では、「以前から行われていない」が最も高く約5割を占める。

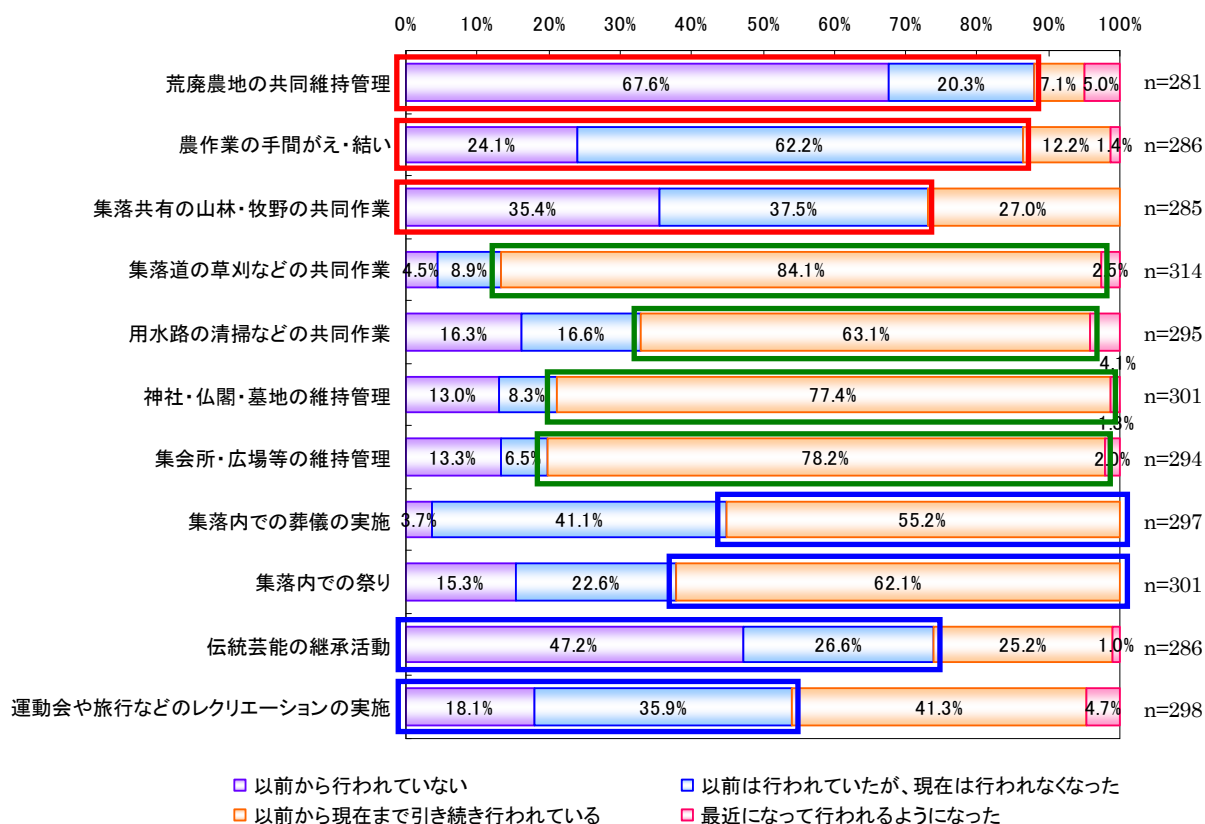
- 「集落内での葬儀の実施」、「集落内での祭り」、「伝統芸能の継承活動」、「運動会や旅行などのレクリエーションの実施」のいずれにおいても、世帯規模が小さいほど、また、高齢化率が高いほど、「以前は行われていたが、現在は行われなくなった」の割合は高くなる傾向にあり、逆に「以前から現在まで引き続き行われている」の割合は低くなる傾向にある。

### ○要因

- 集落内の冠婚葬祭における住民共同活動が行われなくなった主な要因は、「集落内での葬儀の実施」では「人口の高齢化」を挙げる集落が多く、「集落内での祭り」や「伝統芸能の継承」、「運動会や旅行などのレクリエーション」の実施では「人口の減少」を挙げる集落が多くなっている。

### ④集落の「住民共同活動」の実施状況とその要因についてのまとめ

- 以上のことから農作業の共同活動や伝統芸能の継承活動は低迷しつつあるが、共有資産管理や集落内での葬儀・祭の実施については現在まで引き続き実施している集落が多いことが判明した。
- 集落での生活を営む上で、共同活動は欠かせないものであるほか、共同活動の実施状況は集落コミュニティの結束力の実態を現すものであるため、特に集落の共同活動が行われなくなった集落についての対応策の検討を行う必要がある。



### 2.3. 集落での住民共同活動や支援に対する意識(質問2)

- 集落の住民共同活動や支援に対する意識を把握するため、下記の項目について、それぞれの度合いをたずねた。
  - 重要性の度合いとしては、「まったく重要ではない」、「あまり重要ではない」、「どちらともいえない」、「やや重要である」、「たいへん重要である」の5段階の選択肢より選んでいただいた。
- ①「農林作業」の重要性への意識(重要度)
- 「荒廃農地の共同維持管理」
  - 「農作業の手間がえ・結い」
  - 「集落共有の山林・牧野の共同作業」
- ②「共有資産管理」の重要性への意識(重要度)
- 「集落道の草刈」
  - 「用水路の清掃」
  - 「神社・仏閣・墓地の維持管理」
  - 「集会所・広場等の維持管理」
- ③「冠婚葬祭等」の重要性への意識(重要度)
- 「集落内での葬儀の実施」
  - 「伝統芸能の継承活動」
- ④「住民協働体制の重要性」の重要性への意識(重要度)
- 「集落内の寄り合いや話し合い」
  - 「他の集落との連携」
  - 「外部の人や団体からの支援受け入れ」
  - 「他出家族・親族とのきずなの強化」
  - 「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」
- ⑤「生活支援」の重要性への意識(重要度)
- 「訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ」
  - 「直売活動や交流活動の取り組み」
  - 「住民の足の確保」



(1) 「農林作業」の重要性への意識（重要度）

○荒廃農地の共同維持管理の重要度への意識(重要度)

- ・「荒廃農地の共同維持管理」は、「重要である」との回答が 42.7%となり、「重要ではない」(29.8%) より高くなっている。

表 荒廃農地の共同維持管理の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
荒廃農地の共同維持管理	度数	37	49	79	66	57	288
	%	12.8%	17.0%	27.4%	22.9%	19.8%	100%

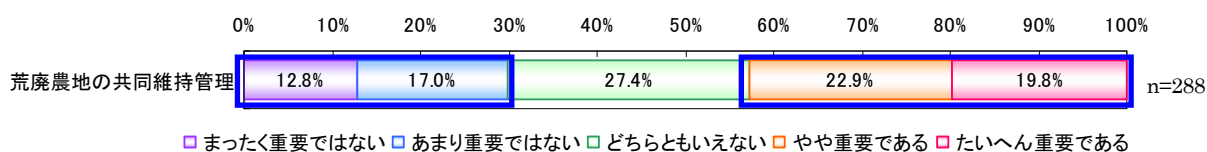


図 荒廃農地の共同維持管理の重要性への意識（重要度）

○農作業の手間がえ・結いの重要度への意識(重要度)

- ・「農作業の手間がえ・結い」は、「重要ではない」との回答が 37.5%となり、「重要である」(33.0%) より、若干高くなっている。

表 農作業の手間がえ・結いの重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
農作業の手間がえ・結い	度数	42	66	85	62	33	288
	%	14.6%	22.9%	29.5%	21.5%	11.5%	100%

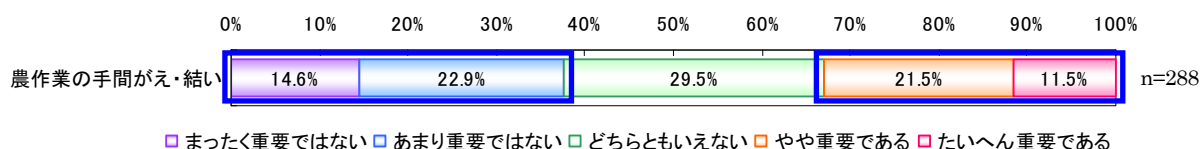


図 農作業の手間がえ・結いの重要性への意識（重要度）

○農作業の手間がえ・結いの重要度への意識(重要度)

- ・「集落共有の山林・牧野の共同作業」は、「重要である」との回答が 45.3%となり、「重要ではない」(30.0%) より高くなっている。

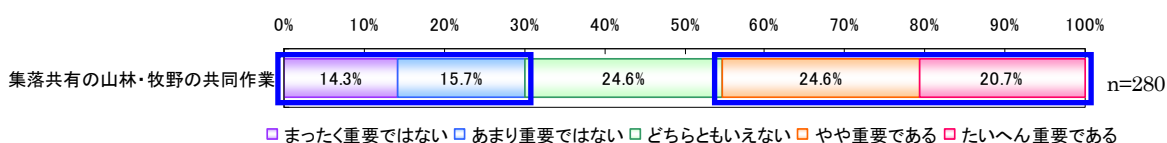
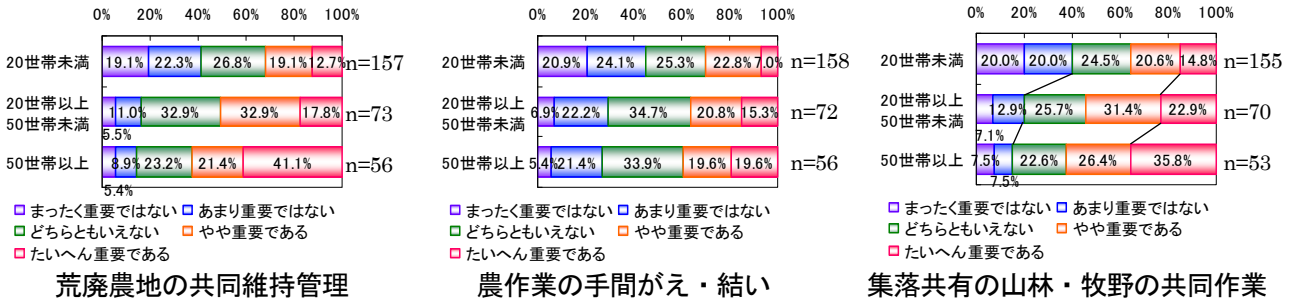


図 集落共有の山林・牧野の共同作業の重要性への意識（重要度）

○「農林作業」の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・「集落共有の山林・牧野の共同作業」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。

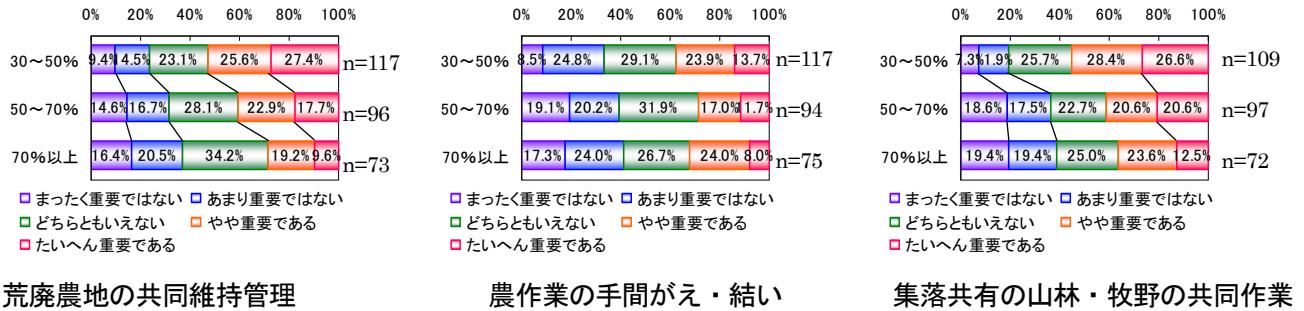
<世帯規模>



○「農林作業」の重要性への意識と高齢化率の関係

- ・農林作業の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「荒廃農地の共同維持管理」、及び「集落共有の山林・牧野の共同作業」の重要度は低くなっている。

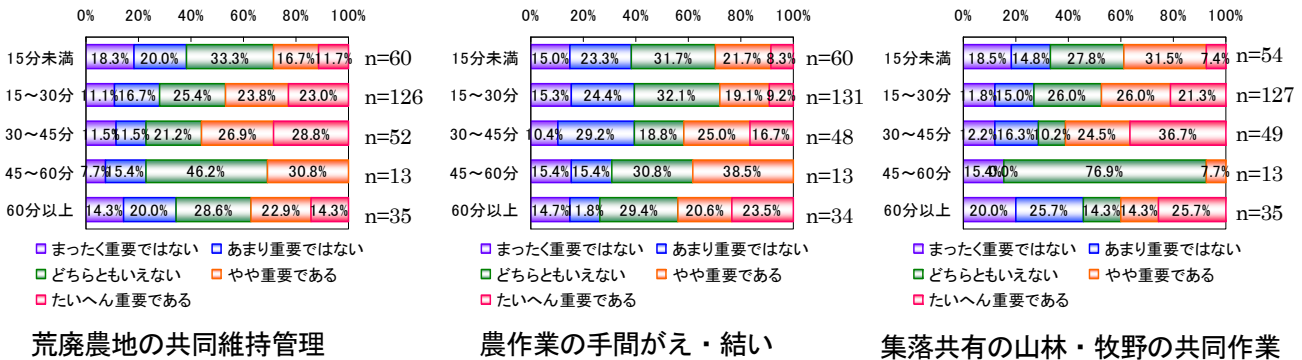
<高齢化率>



○「農林作業」の重要性への意識と生活中心都市への時間距離の関係

- ・農林作業の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離とは関連性が見られなかった。

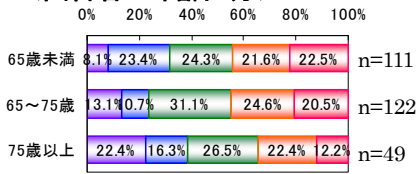
<生活中心都市までの時間距離>



○「農林作業」の重要性への意識と回答者の年齢区分の関係

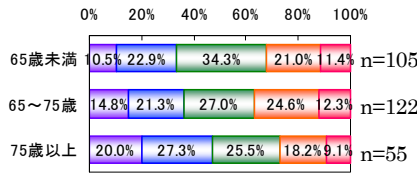
・農林作業の重要性への意識と回答者の年齢区分とは関連性が見られなかった。

<回答者の年齢区分>



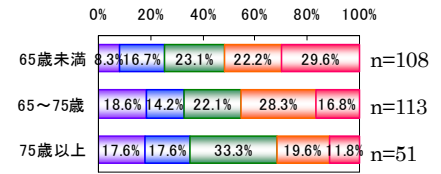
まったく重要ではない    あまり重要ではない  
 どちらともいえない    やや重要である  
 たいへん重要である

荒廃農地の共同維持管理



まったく重要ではない    あまり重要ではない  
 どちらともいえない    やや重要である  
 たいへん重要である

農作業の手間がえ・結い



まったく重要ではない    あまり重要ではない  
 どちらともいえない    やや重要である  
 たいへん重要である

集落共有の山林・牧野の共同作業

(2) 「共有資産管理」の重要性への意識（重要度）

○集落道の草刈などの共同作業の重要性への意識(重要度)

- ・「集落道の草刈などの共同作業」は、「重要である」との回答が 91.7%となっている。

表 集落道の草刈などの共同作業の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集落道の草刈などの共同作業	度数 %	6 1.9%	6 1.9%	14 4.4%	81 25.6%	209 66.1%	316 100%

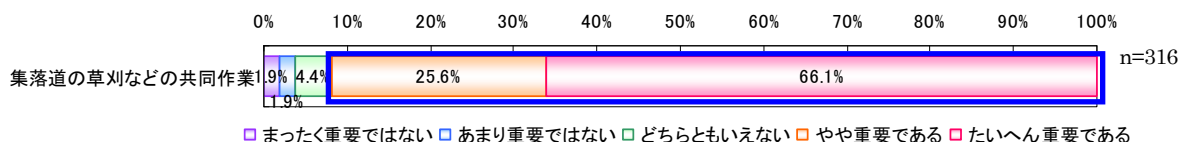


図 集落道の草刈などの共同作業の重要性への意識（重要度）

○用水路の清掃などの共同作業の重要性への意識(重要度)

- ・「用水路の清掃などの共同作業」は、「重要である」との回答が 81.7%となっている。

表 用水路の清掃などの共同作業の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
用水路の清掃などの共同作業	度数 %	24 7.8%	13 4.2%	19 6.2%	87 28.3%	164 53.4%	307 100%

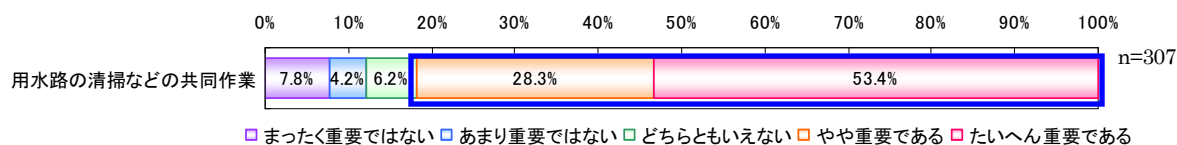


図 用水路の清掃などの共同作業の重要性への意識（重要度）

○神社・仏閣・墓地の維持管理の重要性への意識(重要度)

- ・「神社・仏閣・墓地の維持管理」は、「重要である」との回答が 82.8%となっている。

表 神社・仏閣・墓地の維持管理の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
神社・仏閣・墓地の維持管理	度数 %	12 4.0%	13 4.3%	27 8.9%	100 33.0%	151 49.8%	303 100%

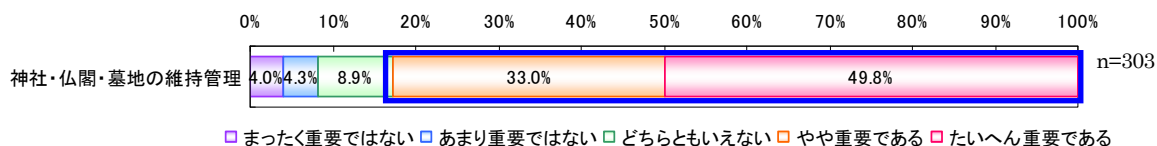


図 神社・仏閣・墓地の維持管理の重要性への意識（重要度）

○集会所・広場等の維持管理の重要性への意識(重要度)

・「集会所・広場等の維持管理」は、「重要である」との回答が87.7%となっている。

表 集会所・広場等の維持管理の重要性への意識(重要度)

共同活動項目		まったく重要 ではない	あまり重要 ではない	どちらとも いえない	やや重要で ある	大変重要で ある	計
集会所・広場等の維持管理	度数 %	15 5.0%	6 2.0%	16 5.4%	92 30.8%	170 56.9%	299 100%

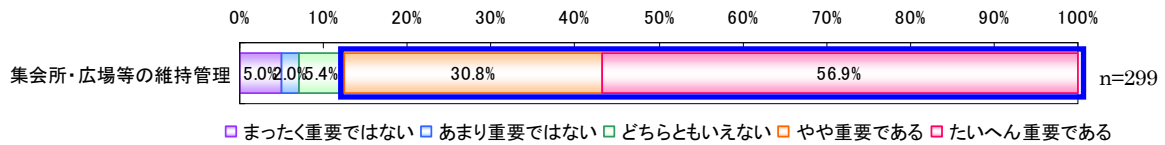
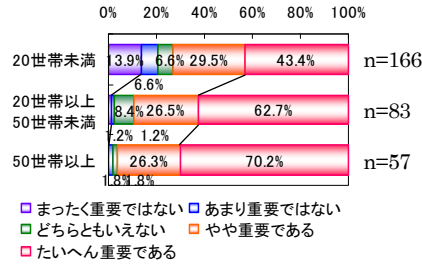
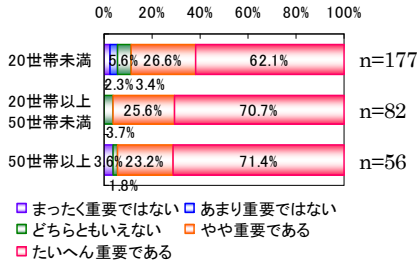


図 集会所・広場等の維持管理の重要性への意識(重要度)

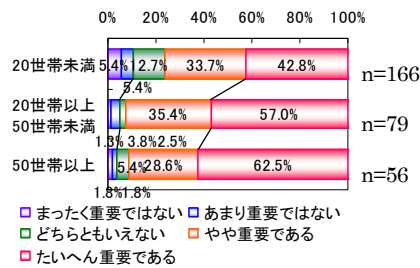
○「共有資産管理」の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・「集会所・広場等の維持管理」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。
- ・「用水路の清掃などの共同作業」、「神社・仏閣・墓地などの維持管理」では、世帯規模が小さくなるほど、「たいへん重要である」割合が小さくなっている。

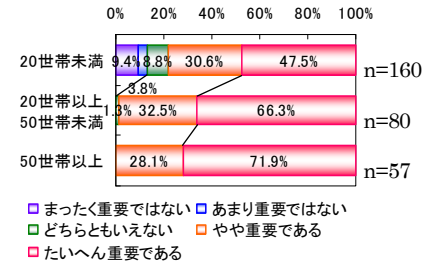
<世帯規模>



集落道の草刈などの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



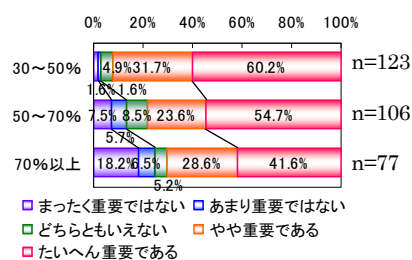
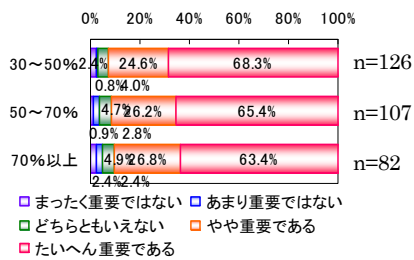
神社・仏閣・墓地などの維持管理

集会所・広場等の維持管理

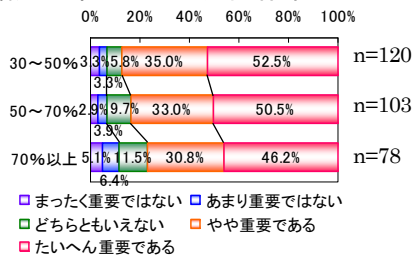
○「共有資産管理」の重要性への意識と高齢化率の関係

- ・共有資産管理に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係をみると、高齢化率が高くなるほど、「用水路の清掃などの共同作業」、「集会所・広場等の維持管理」及び「神社・仏閣・墓地などの維持管理」の重要度は低くなっている。

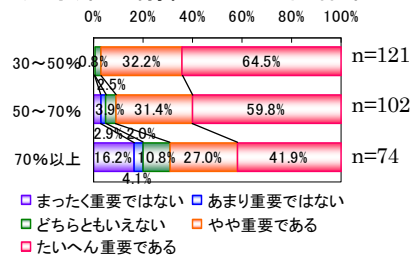
<高齢化率>



集落道の草刈などの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



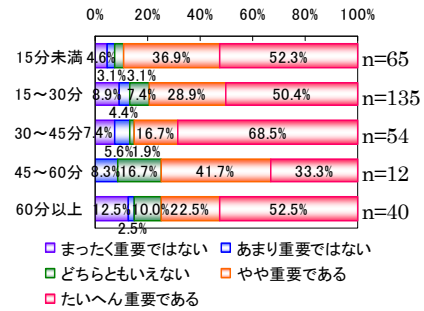
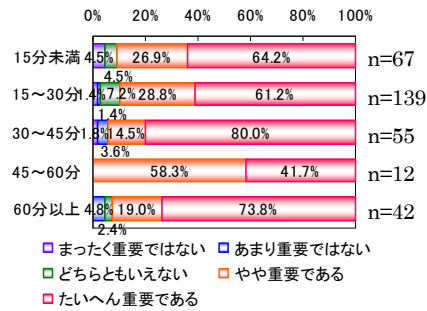
神社・仏閣・墓地などの維持管理

集会所・広場等の維持管理

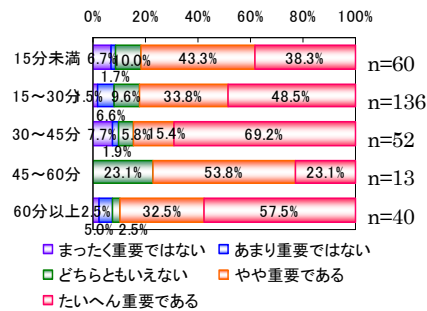
○「共有資産管理」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

・共有資産管理の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離との関連性が見られなかった。

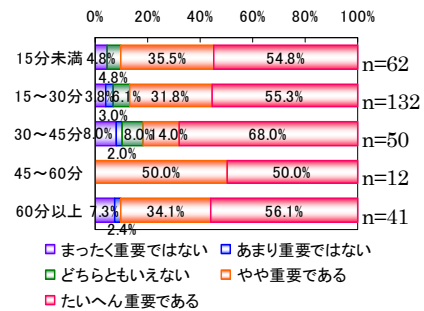
<生活中心都市までの時間距離>



集落道の草刈などの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



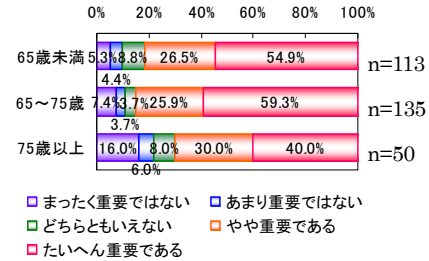
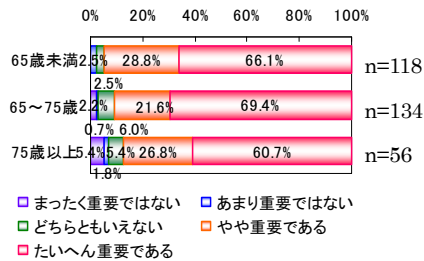
神社・仏閣・墓地などの維持管理

集会所・広場等の維持管理

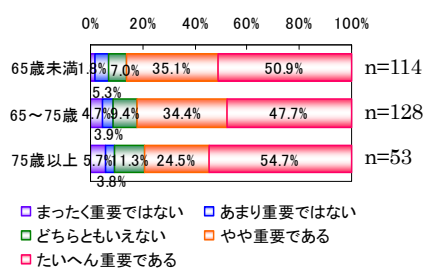
○「共有資産管理」の重要性への意識と回答者の年齢区分の関係

・共有資産管理の重要性への意識と回答者の年齢区分とは関連性が見られなかった。

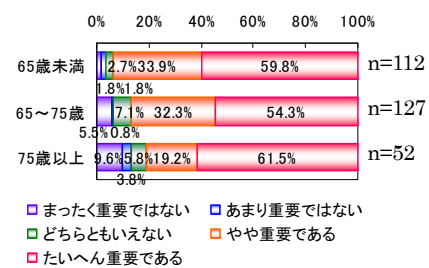
<回答者の年齢区分>



集落道の草刈などの共同作業



用水路の清掃などの共同作業



神社・仏閣・墓地などの維持管理

集会所・広場等の維持管理

(3) 「冠婚葬祭等」の重要性への意識（重要度）

○集落内での葬儀の実施の重要性への意識(重要度)  
 ・「集落内での葬儀の実施」は、「重要である」との回答が46.9%となり、「重要ではない」(24.4%)より高くなっている。

表 集落内での葬儀の実施の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集落内での葬儀の実施	度数	20	55	88	54	90	307
	%	6.5%	17.9%	28.7%	17.6%	29.3%	100%

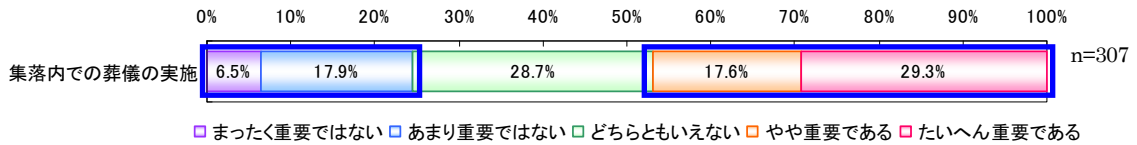


図 集落内での葬儀の実施の重要性への意識（重要度）

○伝統芸能の継承活動の重要性への意識(重要度)  
 ・「集落内での継承活動」は、「重要である」との回答が40.7%となり、「重要ではない」(30.9%)より高くなっている。

表 伝統芸能の継承活動の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
伝統芸能の継承活動	度数	47	41	81	60	56	285
	%	16.5%	14.4%	28.4%	21.1%	19.6%	100%

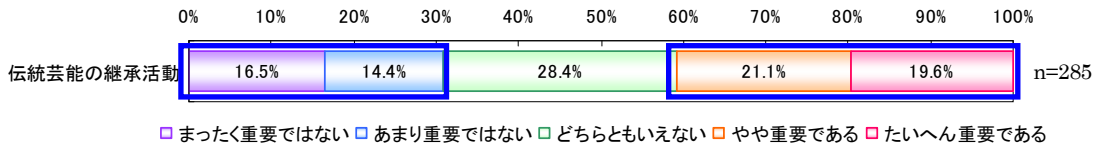
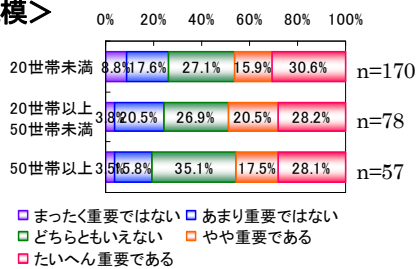


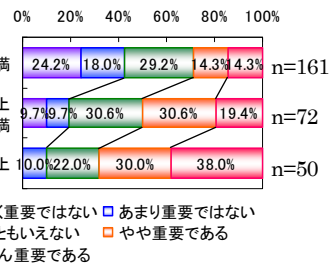
図 伝統芸能の継承活動の重要性への意識（重要度）

○冠婚葬祭等の重要性への意識と世帯規模の関係  
 ・「伝統芸能の継承活動」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。

<世帯規模>



集落内での葬儀の実施



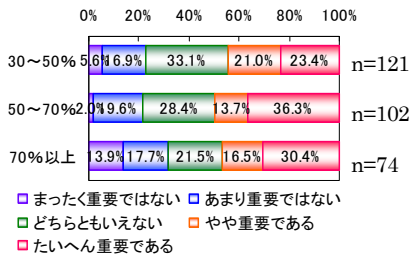
伝統芸能の継承活動



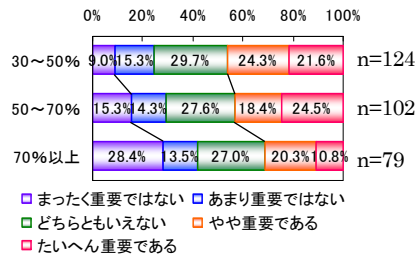
○冠婚葬祭等の重要性への意識と高齢化の関係

・「伝統芸能の継承活動」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

<高齢化率>



集落内での葬儀の実施

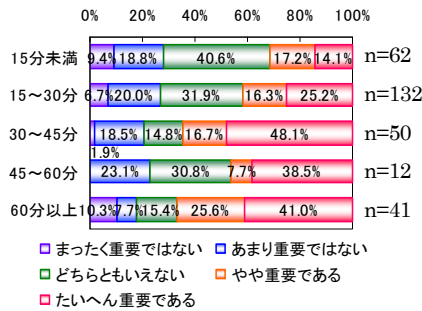


伝統芸能の継承活動

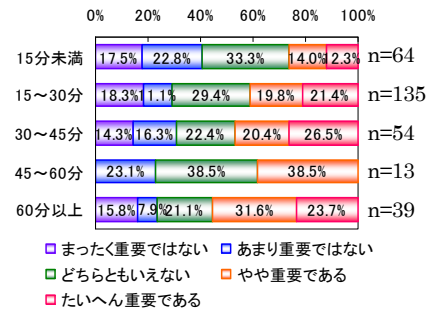
○冠婚葬祭等の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

・冠婚葬祭等の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離は関連性が見られなかった。

<生活中心都市までの時間距離>



集落内での葬儀の実施

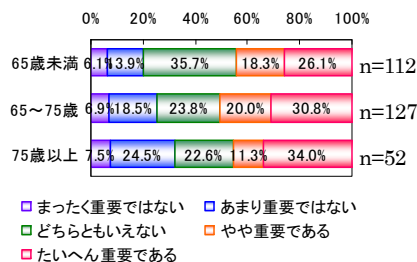


伝統芸能の継承活動

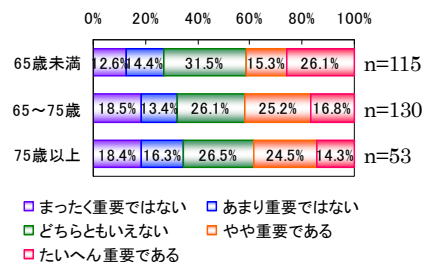
○冠婚葬祭等の重要性への意識と回答者の年齢区分の関係

・冠婚葬祭等の重要性への意識と回答者の年齢区分は関連性が見られなかった。

<回答者の年齢区分>



集落内での葬儀の実施



伝統芸能の継承活動

#### (4) 住民協働体制の重要性への意識（重要度）

##### ○集落内の寄り合いや話し合いの活性化の重要性への意識(重要度)

- ・「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」は、「重要である」との回答が、約9割を占める。

表 集落内の寄り合いや話し合いの活性化の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
集落内の寄り合いや話し合いの活性化	度数	5	7	23	124	155	314
	%	1.6%	2.2%	7.3%	39.5%	49.4%	100%

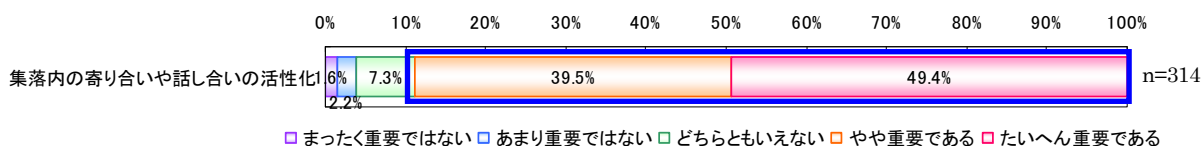


図 集落内の寄り合いや話し合いの活性化の重要性への意識（重要度）

##### ○他の集落との連携の重要性への意識(重要度)

- ・「他の集落との連携」は、「重要である」との回答が、約8割を占める。

表 他の集落との連携の重要性の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
他の集落との連携	度数	5	12	42	149	104	312
	%	1.6%	3.8%	13.5%	47.8%	33.3%	100%

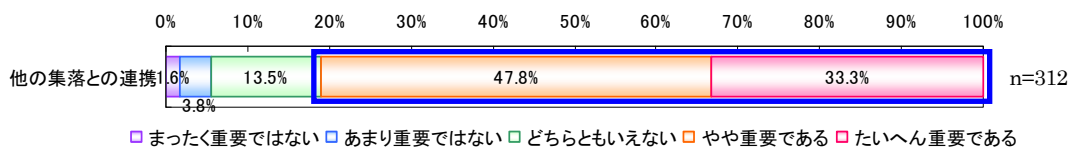


図 他の集落との連携の重要性への意識（重要度）

##### ○外部の人や団体からの支援受け入れの重要性への意識(重要度)

- ・「外部の人や団体からの支援受け入れ」は、「重要である」との回答は約5割であり、他より重要度は低くなっている。

表 外部の人や団体からの受け入れの重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
外部の人や団体からの支援受け入れ	度数	11	28	90	105	61	295
	%	3.7%	9.5%	30.5%	35.6%	20.7%	100%

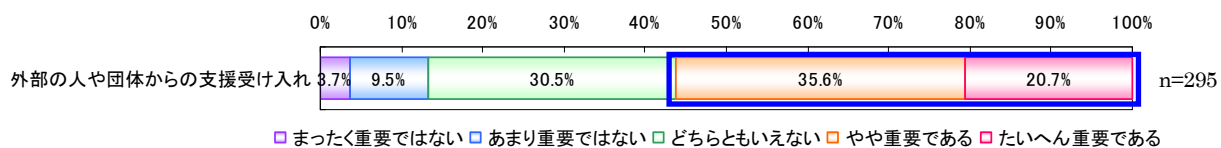


図 外部の人や団体からの支援の受け入れの重要性への意識（重要度）

○他出家族・親族とのきずな強化の重要性への意識(重要度)

・「他出家族・親族とのきずな強化」は、「重要である」との回答が、約8割を占める。

表 他出家族・親族とのきずな強化の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
他出家族・親族とのきずな強化	度数	3	6	45	128	122	304
	%	1.0%	2.0%	14.8%	42.1%	40.1%	100%

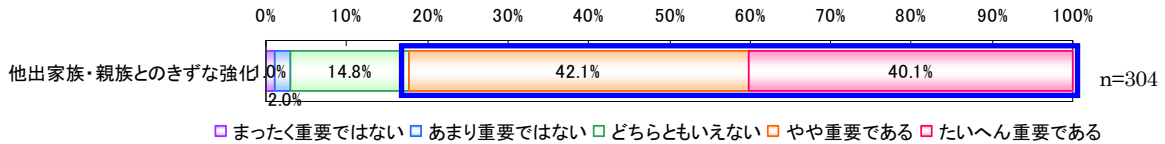


図 他出家族・親族とのきずな強化の重要性への意識（重要度）

○行政と一緒に取り組む地域づくり活動の重要性への意識(重要度)

・「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」は、「重要である」との回答が、約8割を占める。

表 行政と一緒に取り組む地域づくり活動の重要性への意識（重要度）

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
行政と一緒に取り組む地域づくり活動	度数	5	4	35	96	172	312
	%	1.6%	1.3%	11.2%	30.8%	55.1%	100%

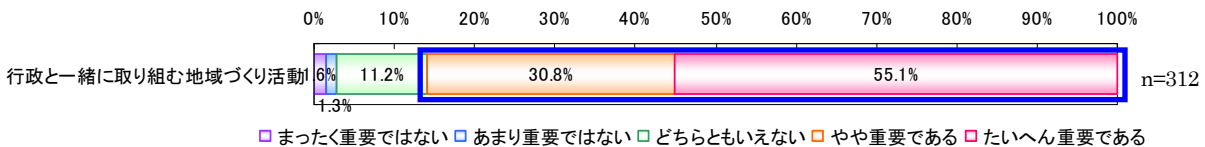
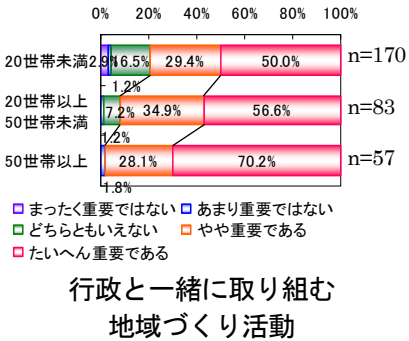
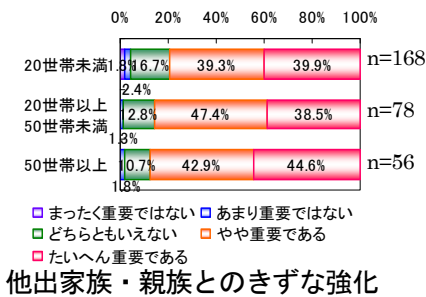
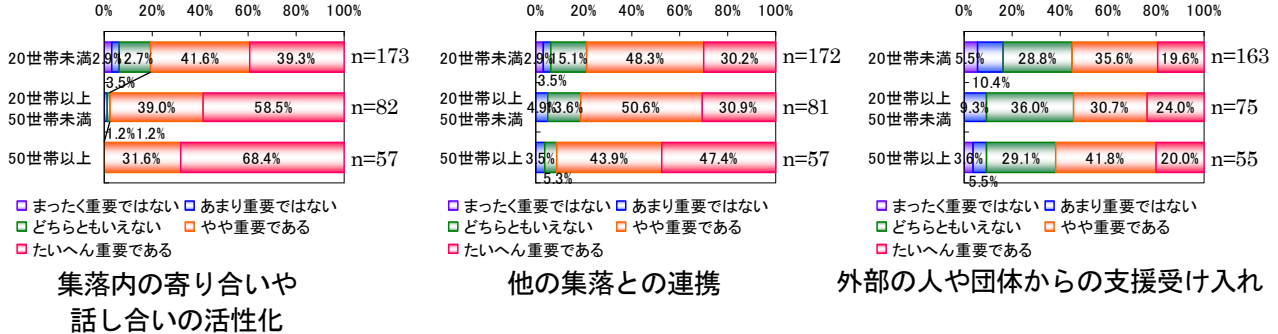


図 行政と一緒に取り組む地域づくり活動の重要性への意識（重要度）

○「住民協働体制」の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」と「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」をみると、世帯規模が小さくなるほど、その重要度は低くなっている。

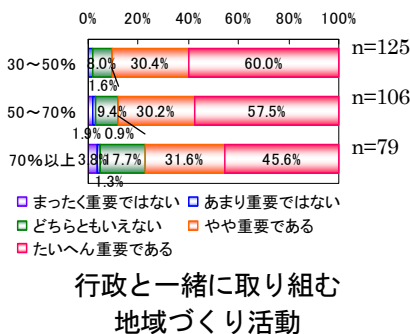
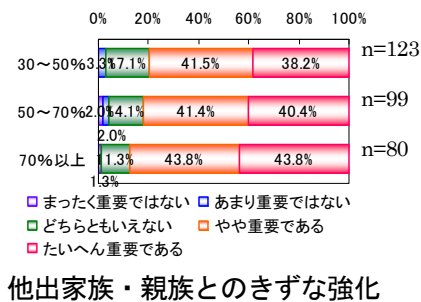
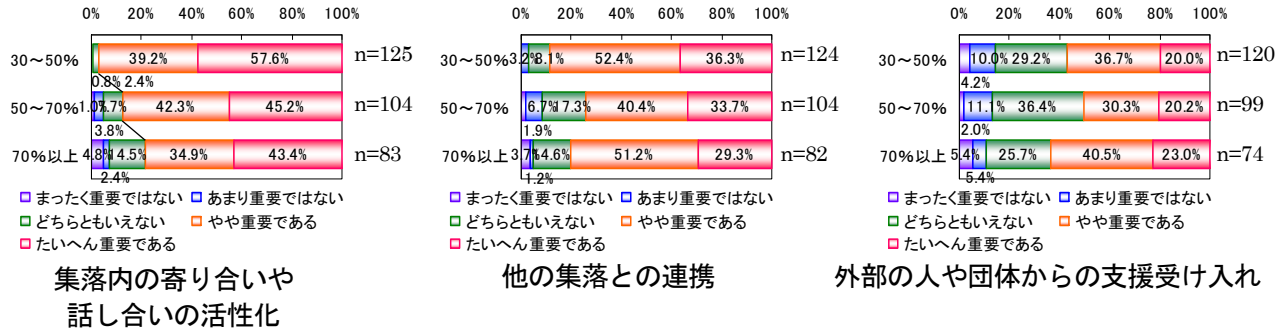
<世帯規模>



○「住民協働体制」の重要性への意識と高齢化率の関係

- ・「集落内の寄り合いや話し合いの活性化」と「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」をみると、高齢化率が高くなるほど、その重要度は低くなっている。

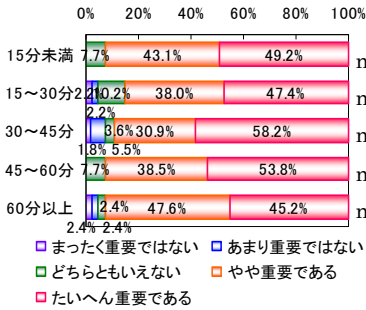
<高齢化率>



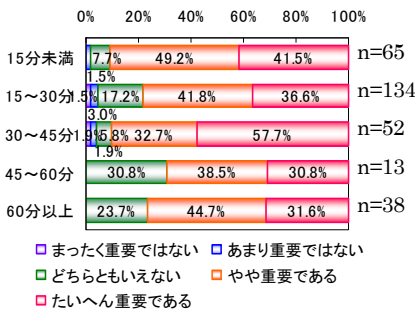
○「住民協働体制」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・「住民協働体制」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離は関連性が見られなかった。

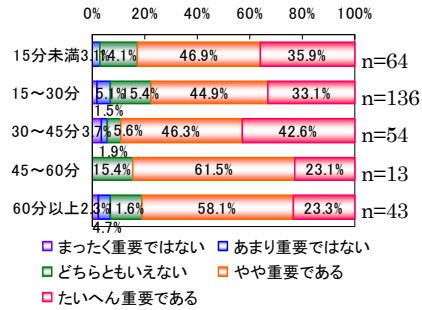
＜生活中心都市までの時間距離＞



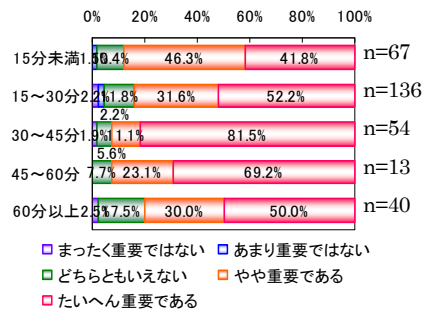
集落内の寄り合いや話し合いの活性化



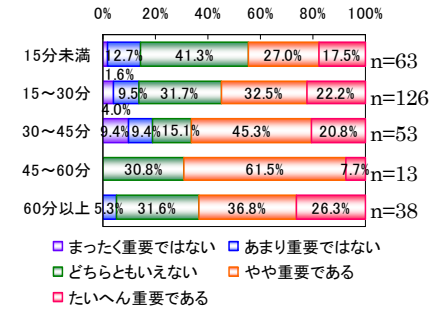
他大家族・親族とのきずな強化



他の集落との連携



行政と一緒に取り組む地域づくり活動

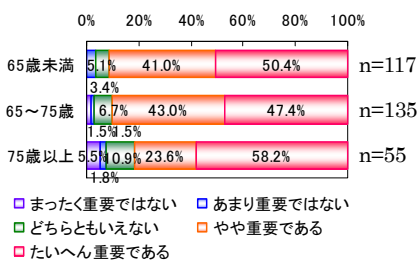


外部の人や団体からの支援受け入れ

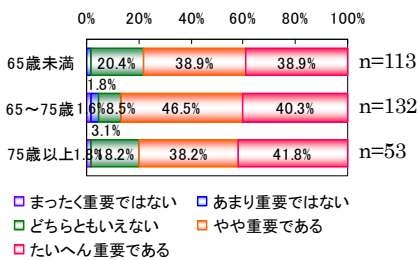
○「住民協働体制」の重要性への意識回答者の年齢区分との関係

- ・「住民協働体制」の重要性への意識回答者の年齢区分は関連性が見られなかった。

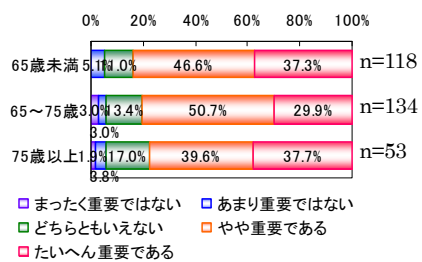
＜回答者の年齢区分＞



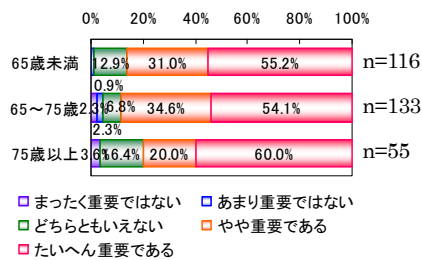
集落内の寄り合いや話し合いの活性化



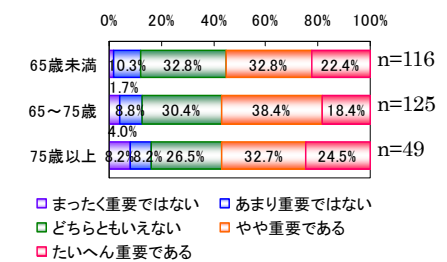
他大家族・親族とのきずな強化



他の集落との連携



行政と一緒に取り組む地域づくり活動



外部の人や団体からの支援受け入れ

(5) 生活支援の重要性への意識 (重要度)

○訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れの重要性への意識(重要度)

- ・「訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れ」が「重要である」との回答が約8割を占める。

表 訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れの重要性への意識 (重要度)

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ	度数	9	5	41	106	145	306
	%	2.9%	1.6%	13.4%	34.6%	47.4%	100%

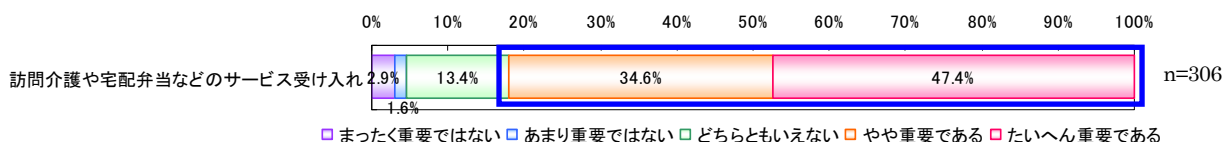


図 訪問介護や宅配弁当などのサービス受け入れの重要性への意識 (重要度)

○直売活動や交流活動の取り組みの重要性への意識(重要度)

- ・「直売活動や交流活動の取り組み」が「重要である」との回答が約5割を占める。

表 直売活動や交流活動の取り組みの重要性への意識 (重要度)

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
直売活動や交流活動の取り組み	度数	13	22	97	101	67	300
	%	4.3%	7.3%	32.3%	33.7%	22.3%	100%

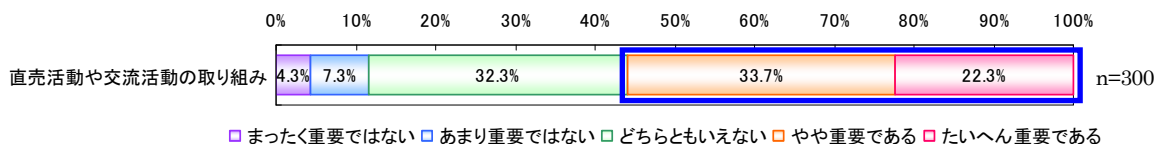


図 直売活動や交流活動の取り組みの重要性への意識 (重要度)

○住民の「足の便」の確保の重要性への意識(重要度)

- ・「住民の「足の便」の確保」については、「重要である」との回答が約 9 割を占め、特にそのうち「大変重要である」との回答が 6 割を占める。

表 住民の「足の便」の確保の重要性への意識(重要度)

共同活動項目		まったく重要ではない	あまり重要ではない	どちらともいえない	やや重要である	大変重要である	計
住民の「足の便」の確保	度数	3	8	19	72	206	308
	%	1.0%	2.6%	6.2%	23.4%	66.9%	100%

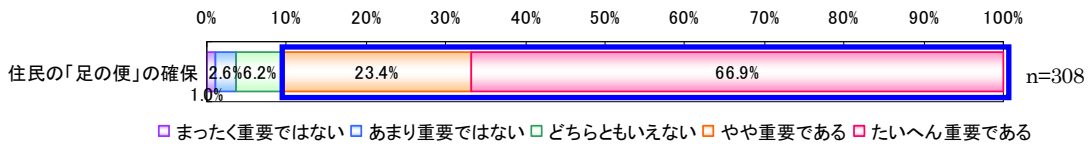
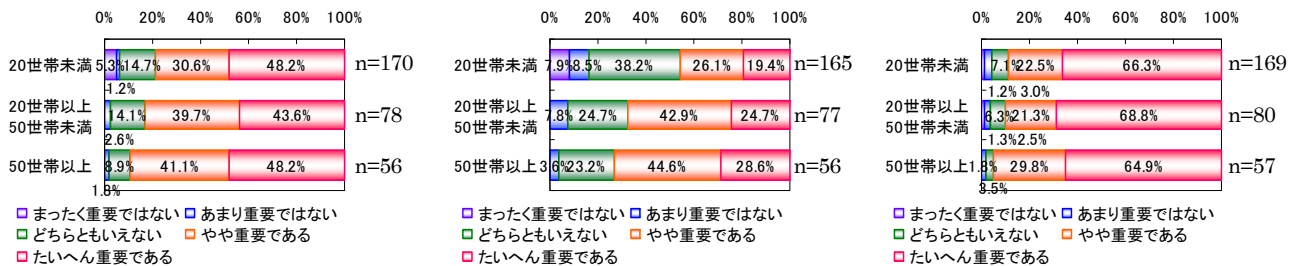


図 集落への生活支援の重要性への意識(重要度)

○「生活支援」の重要性への意識と世帯規模の関係

- ・住民共同活動に対する生活支援の重要性への意識と世帯規模とは関連性がみられなかった。

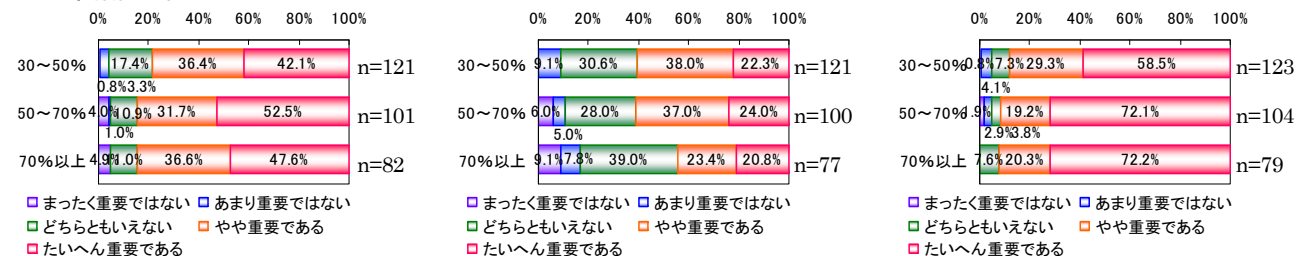
<世帯規模>



○「生活支援」の重要性への意識と高齢化率の関係

- ・集落の住民共同活動に対する生活支援の重要性への意識と高齢化率は関連性がみられなかった。

<高齢化率>

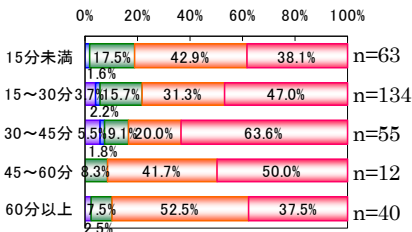




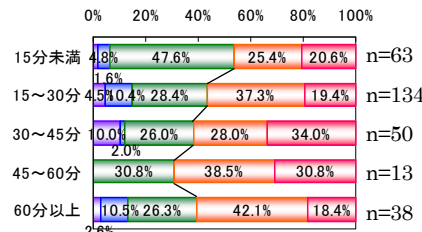
○「生活支援」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・「直売活動や交流活動の取り組み」と「住民の「足の便」の確保」については、「重要である」と「やや重要である」をあわせると、生活中心都市までの時間距離が遠くなるほど、重要と認識する回答割合が高くなる傾向にある。
- ・60分以上に関しては、上記傾向からは外れるものの、これは離島にある集落が含まれることによるものと予想される。

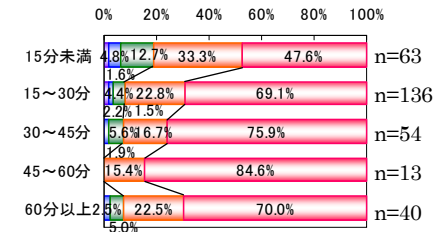
<生活中心都市までの時間距離>



訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ



直売活動や交流活動の取り組み

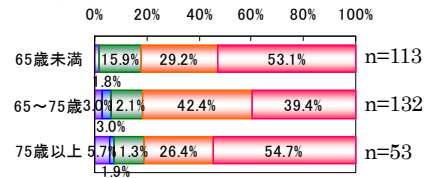


住民の「足の便」の確保

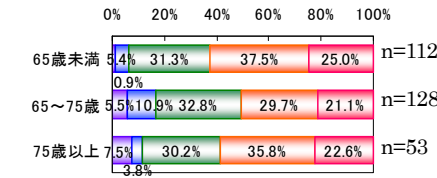
○「生活支援」の重要性への意識と生活中心都市までの時間距離の関係

- ・集落の住民共同活動に対する生活支援の重要性への意識と回答者の年齢区分は関連性がみられなかった。

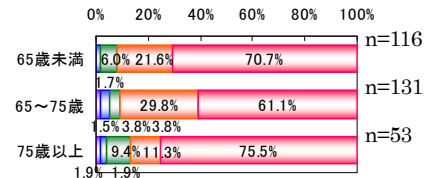
<回答者の年齢区分>



訪問介護や宅配弁当などのサービスの受け入れ



直売活動や交流活動の取り組み



住民の「足の便」の確保



## (6) まとめ

### ①「農林作業」の重要性への意識（重要度）

- ・ 農林作業の住民共同活動が「重要である」と意識している集落は全体の3~4割程度であり、「重要ではない」より、若干重要度の高い傾向となっている。
- ・ 集落の農林作業に対する住民共同活動の重要性への意識と世帯規模の関係を見ると、集落世帯規模が小さくなるほど、農林作業の重要度は低くなっている。
- ・ 集落の農林作業に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「荒廃農地の共同維持管理」、及び「集落共有の山林・牧野の共同作業」の重要度は低くなっている。

### ②「共有資産管理」の重要性への意識（重要度）

- ・ 集落の共有資産管理の重要度はとても高くなっている。（全体の8割~9割以上の集落）
- ・ 集落の共有資産管理に対する住民共同活動の重要性への意識と世帯規模の関係を見ると、集落世帯規模が小さくなるほど、共有資産管理の重要度は低くなっている。
- ・ 集落の共有資産管理に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「用水路の清掃などの共同作業」、及び「集会所・広場等の維持管理」の重要度は低くなっている。

### ③「冠婚葬祭等」の重要性への意識（重要度）

- ・ 冠婚葬祭等の重要性については「重要である」が4~5割、「重要でない」が2~3割となっており、「重要である」との重要度が若干高くなっている。
- ・ 集落の集団活動に対する住民共同活動の重要性への意識と世帯規模の関係を見ると、「伝統芸能の継承活動」において、集落世帯規模が小さくなるほど、「伝統芸能の継承活動」に対する重要度は低くなっている。
- ・ 集落の集団活動に対する住民共同活動の重要性への意識と高齢化率の関係を見ると、高齢化率が高くなるほど、「用水路の清掃などの共同作業」、及び「集会所・広場等の維持管理」の重要度は低くなっている。

### ④「住民協働体制」の重要性への意識（重要度）

- ・ 集落の相互扶助や外部からの支援など、その協働体制の重要性については、「大変重要である」、「やや重要である」が約6割~9割と大半を占め、その重要度が高くなっている。
- ・ 但し、「外部の人や団体からの支援受け入れ」について「重要である」と認識している集落は、全体の5割程度であり、他より重要度は低くなっている。

### ⑤「生活支援」の重要性への意識（重要度）

- ・ 集落支援の取り組みでは「訪問介護や宅配弁当の受け入れ」、「足の確保」、「行政と一緒に取り組む地域づくり活動」の重要度が高くなっている。（全体の概ね8割が重要であると認識している。）
- ・ 「直売活動や交流活動の取り組み」を重要であると意識している集落は全体の5割程度である。

### ⑥集落での「住民共同活動や支援」に対する意識（重要度）のまとめ

- ・ 「農林作業」や「冠婚葬祭等」への重要性の意識が低い一方で、集落の「共有資産管理」への重要性の認識は高い。
- ・ 「住民協働体制」については、集落内での寄り合いや話し合いの重要性は感じつつも、「外部支援」の受け入れの重要性もあるとの意見が多い。（外部の人材・団体支援については他の支援よりもその必要性の認識が低い）
- ・ 生活支援内容として、「介護や弁当宅配」、「交通手段の確保」が「交流活動」より重要であるとの結果になった。
- ・ このことから、集落の多くは生活に係わる支援を重要視する傾向にあり、産業や交流に係わる支援や活動についての重要性が低く認識されている傾向にある。

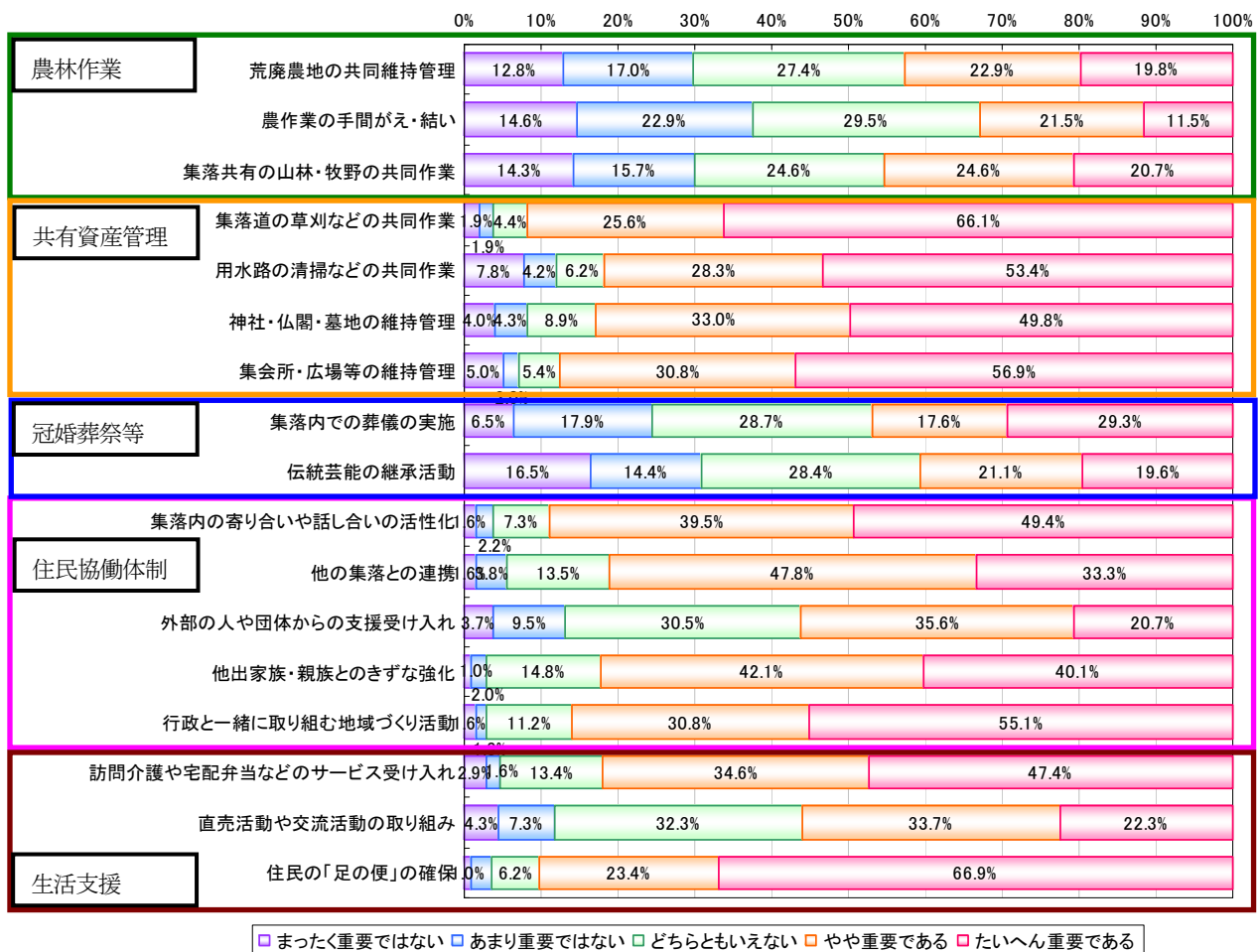


図 集落での「住民共同活動や支援」に対する意識（重要度）